

ノ財産ヲ拘束スル種々ナル規定ヲ設ケ且刑法上特ニ本節ノ規定ヲ置キ以テ其債權者ノ權利ヲ保護スル所以ナリ

刑 法

茲ニ本節ノ適用ノ範圍ニ付キ一言セサル可カラス抑夫ノ明治五年六月發布ノ身代限規則ハ民事上ノ無資力ト商事上ノ支拂停止トノ二者ニ對スル處分法ナリシヲ以テ隨テ此規則ノ存續中ハ本節ノ規定モ亦右民事上ノ無資力ト商事上ノ支拂停止トノ區別ナク之ニ關スル犯罪ニ適用シ來リシカ其後明治廿三年八月法律第六十九號ヲ以テ民事上ノ無資力者ニ對スル家資分散法ヲ發布セラレ尋テ同年十月法律第一百號ヲ以テ商事上ノ支拂停止即チ破産者ニ對スル有罪破産者處罰方ヲ發布セラレタルヲ以テ今日ニ在テハ本節ノ規定ハ唯民事上ノ無資力即チ前記家資分散法ニ該當スル者ノ犯罪ニノミ適用サルニ至レリ

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

本條第一項ノ規定ハ其文辭簡單ニシテ一見其要ヲ撮ルコト難シト雖モ而カモ

刑

法

立法者ノ意ハ蓋シ家資分散ノ決定ヲ受ケタル者其分散決定ノ前後ヲ問ハス債權者ニ損害ヲ與フルノ意思ヲ以テ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタルトキハ云々ト云フニ在ルヤ殆ト疑ナケン何トナレハ裁判上現ニ家資分散ノ決定ヲ受ケタル者ニ非サレハ假令其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加スルモ果シテ債權者ニ損害ヲ與ヘタルヤ否ヤ確定セス又本條ニ汎ク家資分散ノ際ト云ヒ次條ニ分散決定ノ後ナル語アルニ依リ之ヲ見レハ所謂家資分散ノ際トハ分散決定ノ前後ヲ問ハスト云フノ意ナル可ク而シテ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加スルノ所爲アルモ若シ債權者ヲ害スルノ惡意ニ出テス即チ他ノ事情ニ基キントキハ本條ノ罪ヲ構成スルノ理ナケレハナリ故ニ法文ニハ單ニ家資分散ノ際云々トアレトモ本條ノ罪ヲ構成スルノ要素ハ第一家資分散ノ決定ヲ受ケタル者ナルコト第二分散決定ノ前後ニ於テ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタルコト第三債權者ヲ害スルノ意思ニ出テタルコトノ三者ニ在リト知ル可シ

本條第二項ノ情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ元來

其債務者本人ト共ニ第一項ノ罪ヲ實行シタル正犯ナレトモ法律ハ其犯情ノ債務者本人ニ比シテ多少輕キヲ認メ特ニ其刑ヲ減輕セリ故ニ本項ハ總則共犯例ノ一例外ナリトス

刑

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

法

本條前段ハ家資分散ノ決定ヲ受ケタル者カ其分散決定ノ前後ヲ問ハス其牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シタル場合ノ規定ニ係ル蓋シ分散者ノ牒簿其他ノ書類ハ或ハ書證ヲ取置カサリシ債權者ノ債權證明ノ要具ト爲リ民法証據編第三十條或ハ其分散者ノ財産取調ノ材料ト爲リ又或ハ前條ニ規定セル虛偽ノ契約ノ有無ヲ發見スルノ資料ト爲ルモノナレハ家資分散ノ際ニ當リテハ最モ其整頓ヲ必要トス然ルニ故意ヲ以テ其牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄スルトキハ一般債權者ヲ害スルコト大ナリ是レ此規定アル所以ナリ

刑

ル場合ノ制裁ナリ蓋シ一旦家資分散ノ決定アルヤ其分散者ノ財産ハ恰モ一ノ財團ト爲リテ一般債權者ノ配當ニ充ツルモノナルニ其債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償スルトキハ他ノ債權者ノ權利ヲ害スルニ至ルヲ以テ法律ハ特ニ此規定ヲ設ケタルモノナラン

○商法破産編第九章有罪破産

法

第一千五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

刑ニ處ス

第一千五十一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

刑

法

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博役、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ負債ヲ負ヒタルトキ

第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調ヘタルトキ

第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキ

第五 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第千三條第三項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ

第千五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ精算人ニモ之ヲ適用シ又第千五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

○有罪破産者處罰方

〔商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス

二 過怠破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

倍右ノ二法ト本節ノ規定トヲ比觀シ來ルトキハ民事上ノ家資分散ニ關スル罪ト商事上ノ破産ニ關スル罪トノ間ニハ甚シキ寬嚴ノ差アリ即チ破産ニ關スル罪ハ重キハ重罪タル輕懲役ノ八年ニ處セラレ輕キモ尙ホ輕罪タル二个月ノ重禁錮ニ處セラレ、ニ拘ハラス家資分散ニ關スル罪ハ一月乃至四年ノ重禁錮ニシテ常ニ輕罪ノ刑タルニ過キス又破産ニ關スル罪ハ過失ニ出ツル場合ヲモ包含スト雖モ之ニ反シテ家資分散ニ關スル罪ハ故意ニ出ツル場合ノミヲ支配スル等ノ大差アリ而シテ法律カ斯ク此二者ノ間ニ區別ヲ設ケ商事上ノ破産ニ關スル規定ヲ特ニ嚴重且ツ詳密ニ爲シタル所以ノモノハ蓋シ商事ニ必要ナル所謂信用迅速及ヒ安全ノ三大主義ヲ維持シ保護センカ爲メニ出テタルモノナル可シ

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪

ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑

法

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
 本條第一項ニ於テハ詐欺取財ノ定義及ヒ其制裁ヲ規定ス此定義ニ據レハ詐欺
 取財ノ罪ヲ構成スルニハ第一欺罔恐喝ノ所爲アルコト第二財物若クハ證書類
 ヲ騙取スルコト第三故意アルコトノ三要素ヲ具備セサル可カラス
 第一ノ要素 欺罔恐喝ノ二者ハ同シク人ヲシテ誤惑ニ陥ラシムルモノナレト
 モ其手段方法ニ於テ異ナル所アリ因テ左ニ之ヲ分說セン
 (イ)欺罔トハ相當ノ注意ヲ用ヰルモ其虛偽タルコトヲ發見スルヲ得サル詐謀ヲ
 施シ以テ人ヲシテ誤惑ニ陥ラシムルノ所爲ヲ謂フ
 故ニ例ヘハ返却スルコト能ハサルヲ知リナカラ必ス辨濟セント言ヒテ金穀ヲ
 借出シタルモ之カ爲メ格別ノ詐謀ヲ施サ、リシ場合又ハ商人カ單ニ「アルミ」製
 ノ物品ヲ黃金製ナリト言ヒテ高價ニ賣渡シタル場合ノ如キハ一ノ民事上ノ詐
 偽タルニ過キスシテ之ヲ目シテ所謂欺罔ノ所爲即チ刑事上詐欺取財ノ責任ア
 リト云フヲ得ス之ニ反シテ例ヘハ偽造ノ手形ヲ引當ト爲シ若クハ承諾ヲ得サ
 ル或ル富豪トノ連借證書ヲ差入レ以テ金穀ヲ借出シタル場合又ハ商人カ眞鍮

刑

法

若クハ「アルミ」ニ金粉ヲ鍍シ故ラニ之ヲ眞正ノ黃金ナリト僞ハリテ高價ニ賣渡
 シタル場合ノ如キハ所謂相當ノ注意ヲ用ヰルモ其虛偽タルコトヲ發見スルヲ
 得サル詐謀ヲ施シタルモノナレハ則チ刑事上ノ詐偽タル詐欺取財ノ責任アリ
 トス而シテ所謂相當ノ注意トハ世人普通ノ智能即チ常識アル者ノ一般ニ用ユ
 ル所ノ注意ノ謂ナレハ若シ其詐謀ニシテ常識アル者ヲ欺クニ足ルモノナルト
 キハ偶々明察ノ智者ニ對シテ之ヲ施シタルカ爲メ其虛偽タルコトヲ看破サレ其
 目的ヲ達スルヲ得サルコトアルモ尙ホ詐欺取財ノ未遂犯タル可ク之ニ反シテ
 其詐謀ニシテ常識アル者ヲ欺クニ足ラサルモノナルトキハ假令之ヲ智慮淺薄
 ナル愚者ニ對シテ行ヒタルカ爲メ其目的ヲ達シ財物ヲ授與セシムルコトアル
 モ之ヲ以テ欺罔即チ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ト云フヲ得ス但幼者又ハ精神
 錯亂者ニ對スル場合ニ於テハ次條ニ於テ特ニ詐欺取財ヲ以テ論スル例外ノ規
 定アルニ因リ格別ナリト然ルニ或ル學者ハ欺罔タルト否トハ相當ノ注意即
 チ世人普通ノ智能アル者ヲ欺クニ足ルト否ラサルトニ依リ之ヲ區別ス可カラ
 ス一々其被害者ノ智能如何ヲ見テ以テ之ヲ區別スルヲ要スト說ケリ此說ニ從

刑
 フトキハ如何ニ奸曲ナル詐謀ヲ施スモ若シ其被害者ニシテ活眼以テ之ヲ看破
 スルノ明アルトキハ之ヲ欺罔ト云フヲ得ス又其反對ニ普通ノ智能アル者ヲ欺
 クニ足ラサル淺薄ナル詐謀ヲ用ユルモ若シ其被害者ニシテ常識ナキ愚者ニシ
 テ偶々之ニ陥リタルトキハ則チ欺罔ノ所爲アリタルモノト云ハサル可カラサル
 ニ至リ遂ニ民事上ノ詐僞ト刑事上ノ詐僞トノ一般ノ區別ヲ紊ルノミナラス法
 律カ特ニ次條ノ規定ヲ設ケタルノ精神ヲシテ全ク畫餅ニ屬セシムルノ結果ヲ
 生スルニ至ル可シ

法
 所謂詐謀ノ手段方法ハ千態萬狀ニシテ今一々之ヲ枚擧スルニ違アラスト雖モ
 茲ニ其一二ノ場合ヲ示サハ不實ノ成功若クハ利益ヲ希望セシメ以テ人ヲシテ
 誤惑ニ陥ラシムル場合例ヘハ某地ニ於テ善良ナル金鑛ヲ發見シタリト詐稱シ
 其採掘ノ資本トシテ或ル金額ヲ出タサシムル如キ又ハ自己ノ資格ヲ僞リテ人
 ヲシテ誤惑ニ陥ラシムル場合例ヘハ債權者ノ代理人ナリト詐稱シテ僞造ノ委
 任狀ヲ携帶シ以テ其金額ヲ受取リタル場合ノ如キヲ云フ
 或ル論者ハ欺罔タルニハ人ヲ錯誤ニ陥ラシメ之カ爲メ民法上其承諾ヲ阻却ス

刑
 可キ場合ナラサル可カラス故ニ詐欺ノ爲メ承諾ニ錯誤アル場合ト雖モ民法上
 其契約ノ取消スコトヲ得サル場合又ハ單ニ契約ノ瑕疵ヲ成スニ止マル場合ハ
 之ヲ目シテ欺罔ノ所爲ト云フヲ得スト説ケリ此説ニ依ルトキハ詐欺ノ爲メ契
 約ノ性質目的又ハ原因ノ着眼ニ錯誤アリシ場合承諾ヲ阻却スル場合民法財産
 編第三百九條及第三百十二
 條ノミ欺罔ト爲リ物ノ品質ノ錯誤ノ場合承諾ノ瑕疵ヲ成ス場合同上第
 三百十二條又ハ品
 格ノ錯誤ノ場合承諾ノ瑕疵ヲ生スル場合同上同條ハ之ヲ欺罔ト云フヲ得ス然レ
 トモ論者ノ此區別ハ果シテ那邊ニ其論據ヲ汲ミシ乎法文上毫モ此區別ヲ認ム
 ルコト能ハサルノミナラス錯誤ノ爲メ其承諾ヲ阻却スル場合例ヘハ一萬圓ノ
 價アル甲號ノ土地ヲ賣ラント言ヒナカラ其實千圓ノ價ヲモ有セサル乙號ノ土
 地ヲ目的トシタル場合目的ノ錯誤ト其承諾ノ瑕疵ヲ成ス場合例ヘハ眞鍮ニ金
 粉ヲ鍍シタル煙管ヲ以テ之ヲ純金製ナリト詐稱シテ賣渡シタル場合品質ノ錯
 誤トノ間ニ一ハ之ヲ欺罔トシテ詐欺取財ヲ以テ罰シ一ハ之ヲ欺罔ニ非ストシ
 テ單ニ民事上ノ制裁ニ止ムルノ理由果シテ何クニ存スルヤ余ハ論者カ刑法上
 犯罪ノ成立ニ關係ナキ民法上ノ規定ヲ援引シ來リ叨ニ隨意ナル區別ヲ設ケ以

刑

法

テ法文ヲ曲解スルノ勇氣大膽ニ驚嘆セシムルハアラズ
 茲ニ一ノ疑問アリ即チ俗間ニ往々存在スル所謂無錢飲食ノ制裁如何ト云フ問
 題是ナリ此問題ニ付テハ佛國ニ於テモ學說判例共ニ區々ニ涉リ或ハ之ヲ盜罪
 ニ擬ス可シト云ヒ或ハ詐欺取財ナリト論シ又或ハ無罪ナリト主張スル者アリ
 シカハ後ニハ特ニ其正條ヲ設ケ以テ之ヲ一種ノ犯罪ト爲スニ至レリ我邦ニ於
 テハ刑法上此點ニ關スル特條ナシ之ヲ如何ニ決定ス可キ乎曰ク大審院ノ判例
 ニ於テハ常ニ之ヲ詐欺取財ニ問フコトニ一致シ又或ル學者ハ此場合ヲ以テ一
 ノ民事犯ト爲シ常ニ之ヲ無罪ト爲ス可シト主張スト雖モ余ハ此場合ニ付テハ
 一ノ區別ヲ設ケ以テ之ヲ論決スルヲ相當ナリト信ス即チ例ハハ無錢飲食ヲ爲
 ス者ニシテ特ニ美服ヲ纏ヒ金錢ヲ有スルノ狀ヲ裝ヒタル場合ノ如キハ一ノ詐
 欺取財タルモ之ニ反シテ蓬頭敝衣一見其無一文ナルコトヲ知ラル、カ如キ場
 合ハ之ヲ詐欺取財ヲ犯シタル者ト云フヲ得ス何トナレハ特ニ美服ヲ着ケ金錢
 ヲ有スルノ狀ヲ裝フカ如キハ一ノ欺罔ノ所爲ナルモ初メヨリ其無一物ナルコ
 トヲ知ラル、カ如キ場合ハ之ヲ欺罔ノ所爲ト云フヲ得サレハナリ

刑

法

(ロ) 恐喝トハ天災又ハ人禍ヲ説キ人ヲシテ畏怖心ヲ抱カシメ因テ以テ誤惑ニ陷
 ラシムルノ所爲ヲ云フ
 例ヘハ汝カ家ニハ金神ノ祟リアリ今家運ノ長久ヲ欲セハ余ニ若干ノ金子ヲ渡
 セ其祈禱ヲ爲シ吳レント欺キ又ハ汝ハ當年必ス劍難火難若クハ水難ニ罹ルノ
 相アリ今其災禍ヲ避ケント欲セハ余ニ若干ノ幣帛ヲ寄附セヨ我レ汝カ爲メニ
 其安全ヲ祈ラント欺キ以テ其財物ヲ騙取スル如キハ天災ヲ以テ畏怖ノ材料ト
 爲ス恐喝ノ一例ナリ
 例ヘハ汝ハ竊ニ其赤子ヲ壓殺セリト聞ク今余ニ若干ノ金額ヲ與フルニ非サレ
 ハ之ヲ告發セント云フカ如キ又ハ汝余ニ若干ノ金圓ヲ與フルニ非スンハ汝カ
 某婦ト私通シタル醜聞ヲ新聞紙上ニ掲載セント云フカ如キハ即チ人爲ノ災害
 ヲ以テ畏怖ノ材料ト爲ス恐喝ノ一例ナリトス
 草案ニハ恐喝ト云ハスシテ無根ノ事故ヲ畏怖セシメ云々ト言ヘリ故ニ若シ本
 法ノ恐喝ノ語ヲ以テ草案ニ所謂無根ノ事故云々ノ語ト同一意義ヲ有スルモノ
 ト解セハ前例ノ壓殺又ハ醜聞ノ果シテ實際ニ存在セシ事實ナルトキハ之ヲ目

シテ恐喝ト云フヲ得ス然レトモ本法ノ恐喝ノ語ハ草案ノ無根ノ事故云々ノ語ヲ譯出シタルモノニ非スシテ舊律ノ恐喝ノ語ヲ其儘踏襲シタルモノナレハ余ハ其畏怖ノ材料ノ無根ナルト否トヲ問ハス廣ク之ヲ恐喝ノ語中ニ包含セシムルヲ可ナリト信ス

茲ニ脅迫ト恐喝トノ區別ニ付キ一言モサル可カラス脅迫トハ曾テ第三百七十八條ニ於テ説明シタル如ク現ニ身体若クハ財産ニ危害ヲ加ヘンコトヲ示シ以テ其精神ヲ強制スルノ謂ナレトモ恐喝トハ前段ニ陳述スル如ク天災又ハ人禍ヲ説キ人ヲシテ畏怖心ヲ抱カシメ因テ以テ誤惑ニ陥ラシムルニ過キサルモノナレハ其間儼然タル區別アリ即チ(一)恐喝ハ天災又ハ人禍ヲ以テ之ヲ犯スコトヲ得レトモ脅迫ハ人爲ノ災禍ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得ス(二)脅迫ハ人爲ノ災害ノ現在ニ屬スルコトヲ要シ恐喝ハ其未來ニ屬スルコトヲ要ス故ニ例ヘハ汝余ニ百金ヲ與フルニ非スンハ汝カ身首立ロニ其所ヲ異ニセント言ヒテ刀劍ヲ差シ突クル場合ノ如キハ脅迫ニシテ之ニ反シテ汝余ニ百金ヲ與フルニ非スンハ後日機ヲ見テ汝ヲ要撃セント云フカ如キ場合ハ恐喝ナリ(三)脅

刑

法

追ハ被害者ノ精神ヲ強制シ唯畏怖ノ念ヲ生セシムルモノナレトモ恐喝ハ被害者ニ畏怖ノ念ヲ抱カシムルト同時ニ多少ノ信用ヲ起サシメ以テ誤惑ニ陥ラシムルノ差異アリトス

刑 法

第二ノ要素 (イ)本條ニ所謂財物ナル語ハ嘗テ盜罪ノ條下第三百七十七條及第三百七十八條ニ於テ見タル所ノ財物ノ語ト異ニシテ必スシモ有体ノ動産ノミヲ指稱スルニ非ス即チ廣ク有体無体ノ動産、不動産ヲ包含ス何ナレハ盜罪ニ在テハ其目的物ヲ他人ノ所持内ヨリ自己ノ所持内ニ移轉スルニ限ラズ以テ其物躰ハ必ス有体ノ動産ナラサル可カラスト雖モ詐欺取財第三百七十九條ニ於テ其目的物ノ上ニ存スル權利ノミヲ移轉スルヲ以テ足レルカ故ニ無体物又ハ不動産ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得レハナリ

(ロ)證書類トハ權利義務ニ關スル書類ノ謂ニシテ其餘ノ私書ヲ包含セス何トナレハ權利義務ニ關係ナキ私書ヲ騙取スルモ之ヲ以テ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ト云フヲ得サレハナリ

(ハ)騙取トハ欺罔恐喝ヲ施シ財物若クハ證書類ヲ横領スルヲ謂フ而シテ騙取ハ

夫ノ盜罪ニ於ケル竊取又ハ強取ト異ナリテ必スシモ有形的ニ其目的物ヲ彼ヨリ此ニ移轉スルヲ要セス即チ其物件ハ現ニ被害者ノ手裡ニ存スルモ其權利ニシテ無形的ニ犯人ニ移轉スルヲ以テ足レリト不然レトモ既ニ騙取ト云フ以上ハ其物件ハ犯罪ノ當時必ス被害者ノ保管内ニ存スルコトヲ要スルヲ以テ初メヨリ犯人ノ手裡ニ在ル物件ハ詐欺取財ノ物躰タルコトヲ得ズ是レ法律カ受寄財物ニ對スル騙取拐帶其他詐欺ノ所爲ヲ以テ特ニ詐欺取財ニ准スルノ規定ヲ設クルノ必要ニ迫リタル所以ナリ第三百九十條未段

茲ニ一ノ疑問アリ財物若クハ證書類ヲ騙取サ、者即チ被害者ト欺罔恐喝ヲ受クルト別人ナルトキハ之ヲ如何ス可キ乎例ハ偽造ノ證書ヲ以テ出訴シ裁判所ハ其偽造證書タルコトヲ知ラスシテ原告ノ勝訴ニ歸セシメタル場合又ハ受託者ヲ恐喝シテ其受託物ヲ騙取シタル場合ノ如キ其被害者ハ被告人若クハ寄託者ナルモ其欺罔恐喝サル、者ハ裁判所若クハ受託者ナルトキハ之ヲ如何ニ決定ス可キ乎曰ク騙取トハ欺罔恐喝ヲ手段トシテ財物若クハ證書類ヲ横領スルノ謂ナレトモ而カモ其欺罔恐喝ヲ受クル者ト其被害者ト必スシモ同一人

法

刑

法

ナルコトヲ要セス唯其欺罔恐喝ノ結果トシテ財物ヲ横領スレハ足レルヲ以テ此場合ニ於テモ亦騙取即チ詐欺取財ノ罪ヲ構成スルモノト信ス故ニ本條冒頭ニ所謂人ヲ欺罔シ云々ノ人トハ必スシモ被害者ノミヲ指スニ非スト知ル可シ第三ノ要素 詐欺取財ノ罪モ亦總則一般ノ適用ニ因リ罪ヲ犯スノ意アルコトヲ要スルヤ言フ俟タス故ニ偽造ノ證書ヲ以テ真正ノ證書ナリト信シ之ヲ行使シテ金錢ヲ受取リタル場合又ハ鍍金ヲ以テ純金ナリト信シ之ヲ高價ニ賣渡シタル場合ノ如キハ之ヲ欺罔ト云フヲ得ス又之ト同シク自ラ天變地妖ノ來ル可キコトヲ迷信シ隨テ自己ノ祈願ノ力能ク其災禍ヲ免カレシムルコトヲ得ヘシト信シテ金錢ヲ取リタル場合ノ如キモ亦之ヲ恐喝ト云フヲ得サルナリ左レシ此罪ノ構成スルニハ犯人自ラ事ノ不正ナルコトヲ知リ他ヲ害スルノ意思ヲ以テ財物ヲ騙取スルコトヲ要ス

本條第二項ニ於テハ詐欺取財ノ手段トシテ文書ヲ偽造變造シタル場合ノ處分法ヲ規定ス蓋シ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝センカ爲メ官私ノ文書ヲ偽造シ若クハ増減變換スルハ則チ詐欺取財ノ罪ト文書偽造罪トノ想像上ノ數罪俱發ニシテ其

刑

孰レカ重キ者ニ從ヒ之ヲ處斷ス可キハ言ヲ俟タスト雖モ此場合ニ於テハ一ハ公罪一ハ私罪ニシテ全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ立法者ハ唯注意ノ爲メ本項ノ規定ヲ設ケタルモノナラン然レトモ既ニ本項ノ規定アル以上ハ裁判官ハ詐欺取財ノ手段トシテ文書ヲ偽造シタル事件ニ對シテハ必ス本項ヲ適用スヘク總則第百條ニ照シ數罪俱發ノ例ヲ引用スルヲ得サルナリ

第三百九十一條 幼者ノ智慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

本條ニ於テハ詐欺取財ノ例外ヲ規定ス蓋シ詐欺取財タルニハ前條ニ於テ總述シタル如ク世間普通ノ智能アル者ヲ欺クニ足ル詐謀即チ所謂詐罔ヲ施スコトヲ要スルヲ以テ若シ其詐謀ニシテ世間普通ノ智能アル者ヲ欺クニ足ラサルモノナルトキハ之ヲ目シテ欺罔即チ詐欺取財ノ所爲ト云フヲ得ス然レトモ智慮淺薄ナル幼者又ハ精神錯亂シタル者ハ敢テ欺罔ヲ施スニ非サルモ單純ナル虛偽ヲ以テ充分之ヲ欺クニ足ルノミナラス其智慮淺薄又ハ精神錯亂シタルニ乘シテ財物若クハ證書類ヲ授與セシムルハ其背德加害ノ度普通ノ智能アル者ヲ

法

刑

法

欺罔スルニ比シテ優ルコトアルモ決シテ劣ルコトナシ是レ法律カ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ以テ幼者又ハ精神錯亂者ヲ保護スル所以ナリ
幼者トハ未成年即チ滿二十歳以下ノ者ヲ云フ然レトモ滿二十歳以下ノ者ヨリ財物若クハ證書類ヲ得タル場合ハ悉ク皆本條ノ制裁ヲ受クルニ非ス即チ法律ニハ幼者ノ智慮淺薄云々トアルヲ以テ其幼者ニシテ既ニ普通ノ智能ヲ具ヘタル者ナルトキ例ヘハ十七八歳ナル商家ノ子弟ヨリ財物若クハ證書類ノ授與ヲ得タル場合ノ如キハ其欺罔ノ有無ニ因リ前條ノ支配ニ屬セサル可カラス故ニ本條ノ特例ハ幼者ニシテ且ツ智慮淺薄ナル者ヨリ財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル場合ノミニ及フモノト解セサル可カラス
精神錯亂者ニ付テハ成年ト未成年トヲ區別セス又民法上禁治産ノ處分ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス苟モ犯人ニシテ其犯罪ノ當時其被害者ノ知覺ヲ喪失シタルニ乘シタルノ事實アルトキハ皆本條ノ支配ヲ受ケサル可カラス
前條ニ在テハ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ト云ヒ本條ニ於テハ財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ト云ヘリ是レ前條ハ純然タル詐欺取財ニシテ欺

罔恐喝ヲ施シ財物若クハ證書類ヲ得ルモノナレトモ本條ハ之ニ反シテ敢テ欺罔恐喝ヲ施サス唯單純ノ虛偽ヲ以テ財物若クハ證書類ヲ得ルノ差異アルニ因リ法律ハ其區別ヲ明カニセンカ爲メ其文辭ヲ異ニシタルモノナリ

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

本條モ亦詐欺取財ノ例外ナリ即チ販賣交換ノ際特ニ欺罔ノ所爲ヲ施サ、ルモ唯物質ヲ變シ分量ヲ偽ハルノ所爲アレハ直チニ以テ詐欺取財トシテ之ヲ處罰スルノ規定ナリトス故ニ或ル論者カ本條ヲ以テ第三百九十條ノ適用ニ過キサル蛇足ノ規定ナリト云フハ誤レリ

物質ヲ變シトハ甲種ノ物ニ乙種ノ物ヲ混合シナカラ甲種ノミノ如ク裝ヒ又ハ俗ニ謂フ「スリカヘル」等ノ意ニシテ即チ酒八升ニ水二升ヲ混シ一斗ノ酒ト爲シ、契約ヲ爲ス際ニハ純金ノ品物ヲ示シナカラ其引渡ノ際鍍金ノ品物ヲ交付スルカ如キ場合ヲ云フ初メヨリ鍍金製ノ物品ニ付テ契約シ之ヲ引渡シタル場合ノ如キハ其欺罔ノ有無ニ因リ第三百九十條ノ適用ヲ受ク可ク決シテ本條ノ支配

刑 法

スル所ニ非サルナリ

分量ヲ偽ルトハ偽造變造ノ度量衡ヲ用ユルカ又ハ之ヲ用ヰサルモ例ヘハ一丈ノ反物ヲ賣渡シナカラ九尺ヲ交付シ又ハ一石ノ米穀ト他ノ物件トヲ交換センコトヲ約シナカラ九斗シカ交付セサル場合ノ如キヲ云フ

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

本條ニ於テハ所謂冒認罪ヲ規定ス

第一項ニ所謂他人ノ動産不動産ヲ冒認スルトハ即チ他人ノ財産ヲ冒シテ之ヲ自己ノ財産ト爲シ以テ第三者ヲシテ之ヲ誤認セシムルヲ云フ詳言スレハ所有權ノ他人ニ屬スル動産不動産ヲ故意ヲ以テ之ヲ自己ノ所有物ナリト偽リ以テ第三者ヲ欺罔スルノ所爲ナリ故ニ冒認ノ所爲ニ因リ欺罔セラレ、者ハ其財産ノ所有主ニ非ス其之ヲ讓受ケ若クハ抵當典物トシテ收受スル第三者ニシテ且

刑 法

六〇四

ツ其第三者ハ所有主ノ爲メ其收受シタル財産ヲ追奪セラル、ノ危険アルヲ以テ此罪ノ被害者ハ即チ其第三者ナリトス

法文ニ販賣交換ト云ヒ單ニ有償合意ノ讓渡ノ場合ノミヲ罰シ夫ノ贈與ノ如キ無償合意ノ讓渡ノ場合ヲ罰セサル所以ハ蓋シ此罪ノ性質ヨリ出テタル結果ナリ即チ前段ニ説明セル如ク冒認罪ノ被害者ハ其財産ノ所有主ニ非スシテ其之ヲ讓受ケタル第三者ナルヲ以テ若シ其冒認シタル財産ヲ有償合意ニテ第三者ニ讓渡シタルトキハ其第三者ハ其代價物ヲ失フノ危険アルニ因リ之ヲ保護スルノ必要アルモ之ニ反シテ其冒認シタル財産ヲ無償合意ニテ讓受ケタル第三者ハ假令其所有主ヨリ之ヲ追奪セラル、モ何等ノ害ヲ被ルコトナキニ因リ之ヲ保護スルノ要ナクレハナリ

次ニ冒認シタル財産ヲ抵當典物ト爲シタル場合モ亦其債權者タル第三者ニ於テ其擔保物ヲ所有主ノ爲メ追奪セラル、ノ危険アルニ因リ法律ハ之ヲ保護セシカ爲メ此規定ヲ設ケタルモノナリ

右説明スル如ク冒認罪ノ被害者ハ其犯人ヨリ財産ヲ讓受ケ若クハ之ヲ抵當典

下合分知
担保ニ於テ
其所有主ノ
爲メ追奪セ
ラル、ノ危険
アルニ因リ
法律ハ之ヲ
保護セシカ
爲メ此規定
ヲ設ケタル
モノナリ

物トシテ收受スル第三者ナルヲ以テ若シ其第三者ニ於テ其讓受ケタル權利ヲ法律上確實ニ保持スルコトヲ得ル場合例ヘハ一旦甲者ニ賣渡シ其所有權ノ甲者ニ移轉シタル不動産ヲ其甲者ノ未タ登記セサル前ニ於テ再ヒ之ヲ乙者ニ讓渡シ而シテ乙者直チニ之ヲ登記シタル場合又ハ竊ニ甲者ニ賣渡シ未タ之ヲ引渡サ、ル動産ヲ更ニ乙者ニ賣渡シ而シテ乙者ニハ直チニ之ヲ交付シタル場合ノ如キハ他人ノ動産不動産ヲ自己ノ物ナリト冒認シタルノ事實アルモ然カモ之カ爲メ此罪ノ被害者タル可キ第三者ニ於テハ何等ノ害ヲ被ルコトナキヲ以テ所謂冒認罪ノ成立スルコトナキナリ

(2) 本條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ云々ト記シテ特ニ動産ノ二字ヲ省キタル所以ノモノハ蓋シ動産ハ民法上之ヲ抵當ト爲スヲ得ス又典物即チ質入シタル動産ハ其債權者ノ手裡ニ保管セララル、ヲ以テ所謂自己ノ動産ノ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ更ニ之ヲ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ之ヲ抵當典物ト爲スカ如キ場合ヲ生スルコト無キニ由ル

所謂欺隱トハ讀テ字ノ如ク欺キ隱スノ意ナルヲ以テ己ニ抵當又ハ典物ト爲シ

タル事ヲ隠蔽シ何等ノ負擔ナキ完全ノ所有權ナリト欺罔シテ更ニ之ヲ第三者ニ賣與シ又ハ重ネテ之ヲ抵當典物ト爲スノ所爲ヲ謂フ

所謂賣與ノ文字ハ甚々簡單ニシテ一見スルトキハ賣買契約ニ因リ之ヲ付與スルノ意ニ過キサルカ如シト雖モ然レトモ既ニ前項ニ於テ販賣ト交換トテ同様ニ處罰シタルノミナラス本法ノ文例ニ於テ單ニ賣買契約ノミヲ指ストキハ必ス販賣ノ語ヲ使用スルノ點ヨリ考フレハ此賣與ノ文字ハ賣買ト交換トノ二者ヲ包含セシメタル一ノ畧語ナリト解セサル可カラス

或ル學者ハ欺隱トハ必スシモ讓受人又ハ第二ノ抵當債權者若クハ質取債權者ニ對シ第一ノ抵當契約若クハ質契約ノ在ルコトヲ隠蔽スル場合ノミノ謂ニ非スシテ其第一ノ抵當債權者若クハ質取債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ゲサル場合ヲモ包含スト解シ隨テ此罪ノ被害者ハ必スシモ讓受人又ハ第二ノ債權者ニ限ラス第一ノ債權者モ亦時ニ被害者ト爲ルコトアリト論セリ然レトモ元來本條ノ罪ハ一ノ詐欺取財タルコト及ヒ欺隱トハ其文字ノ如ク隠蔽シ欺罔スルノ意タルコトヲ考フルトキハ論者ノ想像スル所ノ單ニ

法

刑

刑

法

第一ノ債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ゲサルニ止マル一ノ消極的行爲ヲ以テ之ヲ欺隱ナリ詐欺取財ナリト云フヲ得ル乎縱シ一步ヲ讓リ欺隱ノ語ヲ廣漫ニ解シ第一ノ債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ゲサル場合ヲモ包含スルモノト爲スモ然カモ法文ニハ明カニ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者云々ト記シテ其讓受人又ハ第二ノ債權者ニ對シ第一ノ抵當契約若クハ質契約ノ在ルコトヲ隠蔽スル場合ノミヲ規定セルヲ奈何セン故ニ余ハ本項ノ罪ノ被害者モ亦前項ト同シク其財産ノ讓受人若クハ第二ノ債權者ナリト解セサル可カラスト信ス左レハ前項ニ於テ設例シタル場合ノ如ク其讓受人又ハ第二ノ債權者ニシテ法律上完全ニ其權利ヲ保護セラルトキ即チ第一ノ抵當債權者又ハ質取債權者ノ未タ登記セサルニ先チ讓受人若クハ第二ノ債權者カ其契約ヲ登記シタルトキハ亦本項ノ罪ヲ構成セサルモノト知ル可シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スト

本條ハ例ニ依リ別ニ之ヲ講述セス

謂物

タル事ヲ隠蔽シ何等ノ負擔ナキ完全ノ所有權ナリト欺罔シテ更ニ之ヲ第三者ニ賣與シ又ハ重ネテ之ヲ抵當典物ト爲スノ所爲ヲ謂フ

所謂賣與ノ文字ハ甚タ簡單ニシテ一見スルトキハ賣買契約ニ因リ之ヲ付與スルノ意ニ過キサルカ如シト雖モ然レトモ既ニ前項ニ於テ販賣ト交換トテ同様ニ處罰シタルノミナラス本法ノ文例ニ於テ單ニ賣買契約ノミヲ指ストキハ必ス販賣ノ語ヲ使用スルノ點ヨリ考フレハ此賣與ノ文字ハ賣買ト交換トノ二者ヲ包含セシメタル一ノ畧語ナリト解セサル可カラス

或ル學者ハ欺隱トハ必スシモ讓受人又ハ第二ノ抵當債權者若クハ質取債權者ニ對シ第一ノ抵當契約若クハ質契約ノ在ルコトヲ隠蔽スル場合ノミノ謂ニ非スシテ其第一ノ抵當債權者若クハ質取債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ケサル場合ヲモ包含スト解シ隨テ此罪ノ被害者ハ必スシモ讓受人又ハ第二ノ債權者ニ限ラス第一ノ債權者モ亦時ニ被害者ト爲ルコトアリト論セリ然レトモ元來本條ノ罪ハ一ノ詐欺取財タルコト及ヒ欺隱トハ其文字ノ如ク隱蔽シ欺罔スルノ意タルコトヲ考フルトキハ論者ノ想像スル所ノ單ニ

刑

法

刑

法

第一ノ債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ケサルニ止マル一ノ消極的行爲ヲ以テ之ヲ欺隱ナリ詐欺取財ナリト云フヲ得ル乎縱シ一步ヲ讓リ欺隱ノ語ヲ廣漠ニ解シ第一ノ債權者ニ對シ賣與又ハ二重ノ抵當典物ヲ爲スコトヲ告ケサル場合ヲモ包含スルモノト爲スモ然カモ法文ニハ明カニ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者云々ト記シテ其讓受人又ハ第二ノ債權者ニ對シ第一ノ抵當契約若クハ質契約ノ在ルコトヲ隠蔽スル場合ノミヲ規定セルヲ奈何セン故ニ余ハ本項ノ罪ノ被害者モ亦前項ト同シク其財産ノ讓受人若クハ第二ノ債權者ナリト解セサル可カラスト信ス左レハ前項ニ於テ設例シタル場合ノ如ク其讓受人又ハ第二ノ債權者ニシテ法律上完全ニ其權利ヲ保護セラルトキ即チ第一ノ抵當債權者又ハ質取債權者ノ未タ登記セサルニ先チ讓受人若クハ第二ノ債權者カ其契約ヲ登記シタルトキハ亦本項ノ罪ヲ構成セサルモノト知ル可シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス本條ハ例ニ依リ別ニ之ヲ講述セス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタ

ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取擄帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ

テ論ス

刑

本條ハ所謂受寄物費消罪ニ關スル規定ナリ抑此罪ハ他ノ信用上委託ヲ受ケタル物件ヲ其信用ニ背キ之ヲ費消スルニ因リテ成ルモノナレハ則チ其性質ハ背信ノ罪ナリトス是レ佛國刑法及ヒ本法ノ草案ニ於テ明カニ之ヲ背信罪ト命名シタル所以ナリ

本條ノ罪ヲ構成スルノ要素ハ(第一)委託ヲ受ケタル金額物件ナルコト(第二)費消スルコト(第三)故意アルコトノ三者ヨリ成ル乞フ以下追次之ヲ講究セン

第一ノ要素 法文ニ受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件トアリ故ニ寄託使用貸借及ヒ質契約ノ外代理保管等何等ノ名義ニ拘ハラズ苟モ民法上一ノ合意ニ因リテ委託セラレ自己ノ所持内ニ存在スル他人ノ所有物ハ悉ク皆此罪ノ物躰タルコトヲ得

犯罪ニ因リテ自己ノ所持内ニ入りタル他人ノ所有物例ヘハ盜取拾得若クハ騙

法

刑

法

取シタル物件ノ如キハ之ヲ費消スルモ唯其犯罪ノ結果タルニ過キスシテ之カ爲メ別ニ一罪ヲ成サハルヤ言フ俟タスト雖モ之ト異ナリテ犯罪ニ因ラス又契約ニ因ラス唯他人カ偶然ニ自己ノ所持内ニ置キ忘レタル物件ヲ費消シタル場合ハ如何スベキ乎或ハ此場合ヲ以テ所謂委託ヲ受ケタル物件ト看做シ之ヲ本條ニ擬スヘシト論スル學者アリト雖モ然レトモ元來本條ノ罪ハ背信罪ナルヲ以テ其物躰ハ契約ニ因リ信用上委託ヲ受ケタル物件ナラサル可カラス然ルニ此場合ニ於テハ唯他人カ偶然ニ置キ忘レタルニ止マルヲ以テ暗黙ノ間ニモ何等ノ合意ナシ之ヲ奈何ソ委託ヲ受ケタル物件ト看做スコト一得ンヤ故ニ余ハ此場合ニ於テハ之ヲ不問ニ付スルノ外ナシト信ス

所謂金額ノ語ニ付テハ別ニ之ヲ説明スルノ要ナカル可シ唯物件トハ如何ナルモノヲ指シタルヤ是レ一言辯セサル可カラス元來物件ナル語ハ廣ク之ヲ見ルトキハ有躰無躰ノ動産不動産ヲ包容スルニ足ル可シト雖モ邦文ノ慣習上常ニ之ヲ有躰動産ノ上ニ使用スルノミナラス無躰物ハ其性質上之ヲ費消スルコトヲ得ス又不動産ニ付テハ別ニ第三百九十三條ノ規定アルヲ以テ本條ノ所謂物

刑 法

件トハ盜罪又ハ遺失物罪ノ物躰ト同シク有躰ノ動産ナリト解セサル可カラス
 第二ノ要素 費消トハ文字ノ上ヨリ之ヲ解スルトキハ費用消耗ノ意ナルヲ以
 テ例ヘハ金錢ヲ使用シ米穀ヲ食用スルカ如ク實際物件ヲ滅盡スルノ所爲ヲ質
 フカ如シト雖モ本條ニ所謂費消ノ語ハ廣義ノ意味ヲ有シ費用消耗ノ外藏匿云
 入販賣交換贈與毀壞等苟モ其物件ヲシテ所有主ニ返還スルコト能ハサル地位
 ニ至ラシムル總テノ場合ヲ包含ス何トナレハ現ニ草案ニ於テハ廣義ノ文辭ヲ
 使用シタリシノミナラス委託ヲ受ケタル物件ヲ費用消耗シテ之ヲ返還スルコ
 ト能ハサル場合ト之ヲ販賣交換シ若クハ質入シテ返還スルコト能ハサル地位
 ニ至ラシメタル場合トノ間ニ於テ一ハ之ヲ罰シ一ハ之ヲ不問ニ付スルノ區別
 アル可キ謂レケレハナリ
 委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消スルモ若シ其所有主ノ承諾シタル方法ニ從ヒ
 之ヲ費消シタルトキハ本條ヲ以テ論スルヲ得ス故ニ消費貸借ノ契約ヲ以テ借
 受ケタル物件ノ如キハ假令初メヨリ之ヲ返還セサルノ意思ヲ以テ之ヲ費消ス
 ルモ罪ト成ラス又之ト同シク典物ト爲スコトノ許諾ヲ得テ借受ケタル物件ヲ

刑

法

質入シ之ヲ流シタル場合ノ如キ假令最初ヨリ之ヲ受ケ出サ、ル故意アルモ之
 ヲ罰スルヲ得ス左レハ所謂費消トハ所有主ノ承諾以外ニ其物件ヲ使用シ而シ
 テ其結果所有主ニ返還スルコト能ハサル地位ニ至ラシメタル場合ヲ云フモノ
 ト知ル可シ
 不代替物例ヘハ衣服器具ノ如キハ一旦之ヲ費消スルトキハ再ヒ之ヲ得ルコト
 能ハサルヲ以テ其費消ノ所爲アルヤ直チニ其罪ノ成立スルコト疑ナシト雖モ
 之ニ反シテ代替物即チ金錢米穀ノ如キハ一旦之ヲ費消スルモ更ニ他ノ同量同
 質ノ物ヲ以テ之ヲ補償スルコトヲ得ルニ因リ或ハ代替物ニ付テハ其費消ノ所
 爲ノミヲ以テハ未タ此罪ヲ完成セス即チ其返還ノ期限ニ至リ之ヲ返還セサル
 トキ始メテ其罪ヲ成スト論スル者アリ而シテ其理由トスル所ハ一ハ期限ニ至
 リ同量同質ノ物ヲ返還セハ何等ノ害ヲ生セスト云フト一ハ代替物ノ性質トシ
 テ其使用ヲ許サレタルモノナレハ其使用即チ費消ノミニテハ未タ罪ト成ラス
 ト云フニ在リ然レトモ一旦費消シタル後期限ニ至リ同量同質ノ物ヲ返還スル
 モ前ノ費消ノ事實ヲ消滅セシムルコト能ハサルノミナラス其費消ノ所爲ト同

時ニ委託者ニ對シテ損害ヲ與フルヲ以テ後ニ同量同質ノ物ヲ返還スルモ其實
 既ニ生シタル損害ヲ賠償スルニ過キスシテ初メヨリ何等ノ害ヲ生セスト云フ
 ヲ得ス若シ事後ノ賠償ヲ以テ何等ノ害ヲ生セス隨テ其罪成立セサルモノトス
 ルヲ得ハ他ノ盜罪詐欺罪等ニ於テモ其一旦盜取若クハ騙取シタル物品ヲ返還
 セハ其罪ヲ成サスト云ハサル可カラサルニ至ラン豈ニ斯ノ如キノ理アラシヤ
 次ニ論者カ代替物ノ性質トシテ其使用ヲ許サレタルモノナレハ其使用即チ費
 消ノミニテハ未タ罪ト成ラスト云フハ二個ノ誤謬アリ何トナレハ代替物ト雖
 モ時ニ其使用即チ費消ヲ許サレサルコトアリ此場合ニ於テハ其費消ト同時ニ
 其罪ノ成立スルコトハ論者ト雖モ亦首肯セン而シテ其使用即チ費消ヲ許サレ
 タルトキハ假令之ヲ費消シ且ツ之ヲ返還セサルモ決シテ其罪ノ成立セサルコ
 トハ既ニ前段ニ於テ説明スル所ノ如クナレハナリ故ニ余ハ代替物ト不代替物
 トヲ問ハス何レモ其費消ノ所爲ト同時ニ其罪ノ成立スルモノト信ス但代替物
 ニ付テハ前ニ述フル如ク他物ヲ以テ補償スルコトヲ得ルニ因リ後段ニ説明ス
 ル犯意ノ要素具備スルヤ否ヤヲ證明スルコト難ク之カ爲メ實際上其罪ノ成立

刑 法

ヲ認ムル場合少ナカル可シ

第三ノ要素 此罪モ亦總則ノ適用ニ因リ犯意アルコトヲ要スルヤ勿論ナルヲ
 以テ若シ受託物ヲ自己ノ物ナリト誤信シテ之ヲ費消シタル場合又ハ其受託物
 ノ腐敗センコトヲ慮カリ之ヲ販賣シタル場合若クハ後日同様ノ物品ヲ返還ス
 ルノ意思ヲ以テ代替物ヲ使用シタル場合ノ如キハ此罪ノ成立スルコトナシ
 法律ハ本條ノ末段ニ於テ一種ノ詐欺取財ノ罪ヲ規定セリ蓋シ詐欺取財タルニ
 ハ前ニ詳論スル如ク欺罔恐喝ノ所爲ニ因リ財物ヲ騙取スルコトヲ要ス故ニ假
 令財物ヲ得ルモ欺罔恐喝ノ手段ヲ施サ、リシトキハ之ヲ純然タル詐欺取財ト
 シ第三百九十條ニ問フヲ得ス然レトモ詐言(欺罔恐喝ト云フヲ得サル)ヲ以テ財
 物ヲ委託セシメ之ヲ費消スルハ相互ノ信用上任意ニ委託シタル物ヲ費消スル
 ニ比シテ其害大ナルヲ以テ法律ハ之ヲ一種ノ騙取ト看做シ詐欺取財ヲ以テ論
 スルコト、爲セリ

刑

法

又最初委託ヲ受クル際ニハ敢テ詐言ヲ用ヰサルモ後ニ之ヲ拐帶即チ惡意ヲ以
 テ持テ逃ケスルカ如キ詐欺ノ所爲アルトキハ假令既ニ其財產物ハ自己ノ所持

内ニ存在スルヲ以テ之ヲ騙取ト云フヲ得サルモ其實詐欺取財ト同一ノ情狀アルニ因リ亦之ヲ一ノ詐欺取財トシテ處罰スルコト、爲セリ

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者

ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八

條ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ竊盜罪ニ於テハ第三百六十六條ノ規定ニ對スル第三百七十一條ノ規定ト同シク受寄物費消罪タル前條ノ規定ニ對スル例外ノ規定ナリ即チ受寄物費消罪モ亦竊盜罪ト同シク他人ノ所有物ニ對スルニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得サルヲ以テ原則ト爲スト雖モ然レトモ強制執行若クハ物件搜索等ノ處分ニ因リ官署ヨリ差押ヘラレタル自己ノ所有物ハ自由ニ之ヲ處分スルヲ得サルニ因リ法律ハ若シ其差押ヘラレタル物件ヲ他人ノ看守スルトキ竊取スル場合ハ之ヲ竊盜罪トシテ論シ而シテ若シ自己ノ看守即チ委託ヲ受ケタルトキ之ヲ藏匿脱漏スル場合ハ受寄物費消罪ノ一種タル本條ノ罪トシテ論スルコト、爲セリ故ニ本條ノ法文ニハ單ニ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ云々トアレトモ官署ヨリ

刑

法

刑

法

差押ヘラレ且ツ自己ニ委託セラレタル物件ヲ云々ト補足シテ解釋スルヲ要スル本條但書ノ場合ハ別ニ之ヲ説明スルノ要ナカル可シ

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪犯ノ例ニ

照シテ處斷ス

本條ハ別ニ之ヲ講述セス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係

ル時ハ其罪ヲ論セス

本條ノ解釋ニ付テハ第三百七十七條及ヒ第三百八十七條ノ說明ヲ參看セハ自ラ明カナルヘキヲ以テ今復タ贅セス

第六節 贓物ニ關スル罪

本節ニ於テハ贓物ニ關スル罪ヲ定ム蓋シ犯罪ニ因テ得タル物件ヲ取受シ又ハ寄藏故買シ若クハ其牙保ヲ爲ス者ハ皆ニ他ノ犯罪ノ結果ニ因リ自ラ利益ヲ圖ルノミナラス盜犯者等ヲシテ安ンシテ其兇行ヲ逞フセシムルノ便宜ヲ與フル者ナレハ其情狀惡ム可ク其害亦大ナリ是レ法律ノ本節ノ規定ヲ設ケ以テ之ヲ

嚴重ニ取締リタル所以ナリ

強窃盜等ノ罪ヲ犯ス者ハ其贓物ニ干與スル者トハ極テ密接ノ關係ヲ有スト雖モ然レトモ是レ決シテ共犯者ニ非ス何トナレハ贓物ニ干與スルノ所爲ハ強窃盜ノ既遂後ニ於ケル別種ノモノナレハナリ是レ我刑法ニ於テ其母法タル佛國刑法ノ規定(佛國刑法ニ於テハ贓物ニ關スル罪ヲ以テ事後ノ從犯ト爲セリ)ニ反シ斷然之ヲ他ノ獨立ノ一罪ト爲シタル所以ナリ夫レ既ニ贓物ニ關スル罪ハ強窃盜ノ罪等ト關係ナキ別種ノ犯罪タリ故ニ其時効ノ期間ノ各、獨立シテ經過スルハ勿論贓物ニ關スル罪ヲ裁判スルニ當リ強窃盜ノ罪等ノ確定スルヲ待ツノ要ナク又其二者ノ判決ノ相抵觸スル所アルモ決ジテ違法ニ非サルナリ

第二百九十九條 強窃盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ強窃盜ノ贓物ニ干與スル者ノ罪ヲ規定ス

贓物トハ犯罪ニ因リ直接ニ得タル物件ノ謂ナリ故ニ窃取シタル金錢ハ贓物ナレトモ其金錢ヲ以テ買得タル物件ハ之ヲ贓物ト云フヲ得ス又強取シタル衣類

刑

法

ハ贓物ナレトモ其衣類ヲ賣却シテ得タル金錢ハ贓物ニ非サルナリ

法文ニ所謂之ヲ受ケトハ下ノ寄藏故買等ヲ除クノ外贈與交換典物等何等ノ名義ニ拘ハラス廣ク贓物ヲ受領スルノ所爲ニシテ寄藏トハ即チ寄託ヲ受ケテ贓物ヲ藏匿スルノ所爲ヲ云ヒ而シテ故買トハ贓物ヲ買受クルノ所爲ニシテ又牙保トハ賣主買主ノ間ニ立テ其賣買ノ周旋ヲ爲シ若クハ之ヲ保證スルノ所爲ヲ云フ

又法文ニ贓物ナルヲ知テ云々トハ唯此罪ノ犯意アルコトヲ要スルノ意ヲ示シタルニ過キス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

法律カ同シク贓物ニ關スル罪ナルニ拘ハラス前條ノ強窃盜ノ贓物ニ關スル罪ニ付テハ監視ヲ附加シ次條ノ詐欺取財等ノ贓物ニ關スル罪ニ付テハ監視ヲ附加セサル所以ノモノハ蓋シ強窃盜ノ犯者ハ多ク其贓物ノ處置ヲ他人ニ付託スルヲ以テ隨テ其贓物ノ取扱ヲ以テ一ノ營業ト爲シ再犯三四犯ニ至ル者往々之レ有リト雖モ之ニ反シテ詐欺取財等ノ犯者ハ其贓物ヲ他人ニ委付スルコト少

刑

法

ナク隨テ其贓物ニ關スル罪ヲ累犯スル者稀レナルニ由ルナル可シ

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ

若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

刑

本條ハ詐欺取財等ノ贓物ニ關スル罪ヲ規定ス

所謂其他ノ犯罪トハ如何ナル犯罪ヲ包含スルヤ蓋シ遺失物理藏物ニ關スル罪
家資分散ニ關スル罪又ハ受寄財物ニ關スル罪ノ如キ所謂財產ニ對スル罪ヲ包
含スルコトハ勿論ナル可シト雖モ夫ノ官吏收賄ノ罪又ハ官吏財產ニ對スル罪
ノ如キ所謂公益ニ關スル罪マテヲモ包含スルヤ否ヤ或ル學者ハ草案ニ財產ニ
對スル罪ノミニ制限シタリシ規定ヲ藉リ來リ本條ノ規定モ亦之ヲ狹義ニ解シ
財產ニ對スル罪ノミヲ包含スト説ケトモ然レトモ余ハ今日本條ノ規定ノ汎博
ニシテ何等ノ制限ナキト官吏收賄ノ罪又ハ官吏財產ニ對スル罪ニ因リ得タル
贓物ナルコトヲ知テ之ヲ寄藏故買スルカ如キ所爲ヲ不問ニ付スルノ理ナキト
ニ因リ擧口之ヲ廣義ニ解釋スルヲ以テ可トセン但賭博ニ因リ得タル財物ノ如

法

刑

法

キハ雙方共ニ罪ヲ犯シ輸贏ヲ爭フテ得タル物ナレハ法律上ノ保護ヲ受ク可キ
被害者ナキヲ以テ之ヲ贓物ト云フヲ得ス隨テ賭博ニ因リ贏チ得タル物件ヲ受
領スルモ之ヲ本條ニ擬シテ處罰スルヲ得サルナリ

本條ニ於テハ贓物ノ語ヲ用ヰシテ廣ク犯罪ニ關シタル物件ト云ヘリ故ニ一
見スルトキハ犯罪ニ因テ得タル物件ハ勿論犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲモ包含
スルカ如シ然レトモ元ト本節ノ規定ハ贓物ニ關スル罪ニシテ而シテ犯罪ノ用
ニ供シタル物件ハ贓物ニ非サルヨリ若フレハ所謂犯罪ニ關シタル物件トハ犯
罪ニ因テ得タル物件即チ贓物ノ意ナリト解セサル可カラサルヤ蓋シ言ヲ俟タ
ス

第七節 放火失火ノ罪

本節ニ於テハ放火失火ノ罪ヲ定メ其終リニ火藥其他激發ス可キ物品ヲ破裂セ
シメテ人ノ家屋財產ヲ毀壞スル罪ヲ附加セリ若シ夫レ本節ノ罪ノ編纂排列ノ
其當ヲ得タルヤ否ヤハ本章ノ冒頭ニ於テ一言シタル所ナレハ今復タ贅セス

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒毀シタル者ハ死刑ニ處ス

第三編 第二章 財産ニ對スル罪

刑

法

本條ノ罪ヲ構成スルニハ第一火ヲ放チ燒燬スルコト第二其物躰ノ人ノ住居シタル家屋ナルコト第三故意アルコトト三要素ヲ具備セサル可カラス而シテ以下各條ノ罪ニ付テモ亦唯右第二ノ要素タル犯罪ハ物躰ヲ異ニスルノミニシテ其第一ノ要素タル所爲及ヒ第三ノ要素タル犯意ニ於テハ敢テ異ナル所ナシ第一ノ要素 火ヲ放ツノ方法ニ付テハ法律上別ニ其制限ナキヲ以テ如何ナル手段ヲ用サルモ苟モ其燒燬セント欲スル物躰ニ火力上ノ化學的作用ヲ起サシムルニ足ル方法ヲ施セハ則チ可ナリ

燒燬トハ唯火力ヲ以テ燻クノ意ニシテ必スシモ燒盡シテ焦土ト爲スノ意ニ非然レトモ此罪ノ既遂タルニハ其家屋ノ僅少部分タル門戶牆壁若クハ戸障子ノ如キヲ燒キタルノミニテハ未タ足レリトセス必ス其或ル部分ヲ燒キ以テ家屋タルノ形狀ヲ失ハシムル迄ニ達シタルヲ要ス何トナレハ單ニ其僅少部分ヲ燒キタルノミニシテ其家屋ハ依然家屋トシテ現存スル以上ハ恰モ人ヲ殺サントシ唯之ヲ傷ケタルノミニシテ毫モ其人ノ生命ニ關係ナキ場合ト同様ナレハナリ故ニ或ル學者ノ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ之ニ接近セ

刑

法

ル建造物等ニ放火シ其建造物ノ燒失シタルトキハ未タ其家屋ニ傳火セサル場合ト雖モ既ニ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタル罪ノ既遂犯ナリト論スルノ誤レルハ勿論又放火罪ハ既ニ火ヲ家屋ニ放テハ則チ完成スルモノニシテ僅々一部分ノ燒燬ニ止マル場合ト雖モ既遂ヲ以テ論セサル可カラスト云フノ説モ亦從フニ足ラサルナリ

第二ノ要素 人ノ住居シタル家屋トハ次條ノ人ノ住居セサル家屋即チ俗ニ謂フ明キ屋ニ對スル語ニシテ平生人ノ居住シツ、アル家屋ノ謂ナリ故ニ放火ノ當時偶々其家人ノ外出シテ不在ナルモ常ニ人ノ居住セル家屋ナルニ於テハ則チ本條ノ罪ノ物躰タルニ妨ケナシ

所謂人ノ住居シタル家屋云々トアル其人ナル語ハ自己以外ノ他人ヲ意味スル文詞ナルヲ以テ假令自己ノ所有ニ屬スル家屋ト雖モ借家人若クハ自己ノ家族ノ住居スル場合ニ放火シタルトキハ本條ノ制裁ヲ免カル、ヲ得ス但後ノ第四百七條ノ規定アルニ因リ自己ノ所有ニ屬スル家屋ニ付テハ其借家人若クハ自己ノ同居人タル家族等ヲ特ニ外出セシメ其不在ノ際ニ放火シタル場合ノ如キ

ハ唯同條ノ處罰ヲ受クルニ止マル可シ

第三ノ要素 放火罪モ亦他ノ一般ノ罪ト同シク故意アルコトヲ要スルヲ以テ其罪ノ成立スルニハ放火ニ因リ燒燬ノ結果ヲ生セシメシムコトヲ希望シ若クハ其結果ノ生ス可キコトヲ豫知シテ之ヲ行フヲ要ス故ニ全ク火ヲ放ツノ意思ナク唯疎虞懈怠ニ因リ偶然ニ火災ヲ起シタル場合ハ勿論假令火ヲ放ツノ意思アルモ燒燬ノ結果ヲ生ス可キコトヲ知ラサル場合例ヘハ竊盜犯者カ家屋内ニ忍入ランカ爲メ唯其戸締ノミヲ燒キ切ラントシタルニ意外ニモ他ニ延燒シタル場合ノ如キハ亦本條ノ罪ヲ犯シタルモノト謂フヲ得ス但火ヲ放ツトキハ普通燒燬ノ結果ヲ生ス可キニ因リ既ニ火ヲ放ツノ意思アリタルトキハ其燒燬ノ結果ヲ豫知シタルモノト推測スルハ當然ナリ故ニ若シ犯人ニシテ唯火ヲ放ツノ意思アリシニ止マリ全ク其燒燬ノ結果ノ生ス可キコトヲ知ラサルトキハ自ラ之ヲ證明セサル可カラス

右説明スル如ク此罪ノ故意トハ燒燬ノ結果ヲ希望シ若クハ其結果ヲ豫知スルノ意思ニシテ而シテ現ニ其結果ヲ生シタルトキハ此二者即チ結果ヲ希望シタル場合ト之ヲ豫知シタル場合トノ間ニ何等ノ差異ナシト雖其結果ヲ生セザリシ場合ニ於テハ二者ノ間ニ甚シキ區別アリ即チ燒燬ノ結果ヲ希望シタル場合ニ於テハ假令其目的ヲ達セサルモ尙ホ其希望シタル罪ノ未遂犯タル可ク之ニ反シテ單ニ其結果ヲ豫知シタルニ止マル場合ニ於テハ唯其實際生シタル害惡ニ付キ責任ヲ負フニ過キス何トナレハ前者ハ所謂特定ノ意思ヲ有スルモ後者ハ唯偶然ニ委スルノ意思ヲ有スルニ過キサレハナリ故ニ例ヘハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬センコトヲ希望シ之ニ接近セル建造物若クハ廢屋ニ放火シタルトキハ假令意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ達セサルモ尙ホ第四百三條又ハ第四百四條ノ既遂犯ト本條即チ第四百二條ノ未遂犯トノ數罪俱發タル可ク之ニ反シテ人ノ住居シタル家屋ニ延燒ス可キコトヲ豫知シ之ニ接近セル建造物若クハ廢屋ニ放火シタルモ遂ニ其家屋ニ傳火セサリシトキハ唯第四百三條又ハ第四百四條ノ罪アルノミ

右同一ノ理由ニ因リ家人ヲ殺サンコトヲ希望シ若クハ家人ノ燒死ス可キコトヲ豫知シテ其家屋ニ放火シ果シテ之ヲ死ニ至ラシメタルトキハ二者共ニ放火

法
刑

法 刑

罪ト殺人罪トノ數罪俱發ナレトモ之ニ反シテ其燒死ノ結果ヲ生セサルトキハ
 殺害ヲ希望シタル場合ト單ニ之ヲ豫知シタル場合トヲ區別シテ決セサル可カ
 ラス即チ殺害ヲ希望シテ放火シタルトキハ其家人ノ傷キタルト否トヲ問ハス
 放火罪ト殺人罪ノ未遂犯トノ數罪俱發ナルモ燒死ス可キコトヲ豫知シタルニ
 止マルトキハ其家人ノ傷キタル場合ハ放火罪ト毆打創傷罪トノ數罪俱發タル
 可ク又其家人ノ何等ノ創傷ヲモ受ケサルトキハ唯放火罪ノ責任アルノミ
 備本節ノ罪ハ一般ニ其刑重ク殊ニ本條及ヒ第四百五條第一項ノ罪ニ付テハ死
 刑ノ極罰ヲ用キタリ是レ蓋シ放火ノ罪ハ營ニ他ノ財産ヲシテ烏有ニ歸セシム
 ルノミナラス社會公衆ノ安寧ヲ害シ甚キハ吾人ノ身軀生命ヲ戕フノ恐ル可キ
 危險ヲ醸成スルヲ以テナリ

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
 本條ニ於テハ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ノ罪ヲ定ム
 人ノ住居セサル家屋トハ前條ニ於テ一言セル如ク人ノ住居用ニ建設シタルモ
 ノナルモ其當時住人ナク全ク明キ屋ト爲リ居ル家屋ヲ云フ而シテ前條ノ人ノ

刑

法

住居シタル家屋ニ付テハ其所有者ノ何人ナルヲ問ハス前條ノ罪ノ物躰タルコ
 トヲ得レトモ本條ノ人ノ住居セサル家屋ニ付テハ其所有權ノ他人ニ屬スル場
 合ノミ本條ノ罪ノ物躰ト爲リ其自己ニ屬スル場合ニ於テハ唯後ノ第四百七條
 ノ制裁ヲ受クルニ過キス
 建造物トハ人ノ住居用ノ爲メニ設ケタル諸建物ノ謂ニシテ倉庫、納屋、神社、佛閣、
 學校、劇場等ノ如キモノヲ云フ而シテ法律ハ此等ノ建造物中ニ人ノ在ル場合ト
 否トニ付キ何等ノ區別ヲ設ケサルヲ以テ假令參詣人、生徒又ハ農工商人若クハ
 見物人等ノ群集セル際ニ放火スル者アルモ前條ニ依リ之ヲ嚴罰スルヲ得ス常
 ニ本條ノ刑ヲ以テ之ヲ處罰スルニ止メサルハカラス但犯人ニ於テ其群集セル
 者ノ全員若クハ一員ヲ殺サントスルノ意思ニ出テタルトキハ其豫謀ノ有無ニ
 從ヒ放火罪ト謀殺又ハ故殺犯トノ數罪俱發ト爲ルヤ勿論ナリ
 前段ニ於テ説明スル如ク本條ノ人ノ住居セサル家屋ハ其所有權ノ他人ニ屬ス
 ルコトヲ要スルヲ以テ建造物ニ付テモ亦其所有權ノ他人ニ屬スルコトヲ必要
 トス而シテ其自己ノ所有ニ屬スル家屋ヲ燒燬シタル者ハ後ノ第四百七條ニ依

リ之ヲ罰スルヲ得ルモ自己ノ所有ニ屬スル建築物ヲ燒燬シタル場合ハ刑法上正條ナキヲ以テ之ヲ不問ニ付スルノ外ナシ是レ實ニ一大欠點ナリトス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒火シタル者ハ重禁錮ニ處ス

所謂廢屋トハ朽腐シテ最早家屋又ハ建築物タルノ用ニ堪ヘス其自然ノ敗滅ニ委シタル建物ヲ云フ故ニ假令住居又ハ其他ノ使用ヲ廢シタル建物ナルモ尙ホ健全ニシテ家屋又ハ建築物タルノ用ニ堪ユルモノナルトキ及ヒ既ニ朽敗シテ普通家屋又ハ建築物タルノ用ニ堪ヘスト雖モ尙ホ之ヲ忍ヒテ現ニ住居又ハ其他ノ使用ニ供シタルモノナルトキハ共ニ之ヲ所謂廢屋ト爲スヲ得ス

柴草肥料ヲ貯フル屋舎ニ付テハ別ニ説明ヲ要セスト雖モ其所謂柴草肥料等云々等ノ文字中ニハ如何ナル物ヲ包含スルヤ蓋シ之ヲ廣ク解スルトキハ實際其際限ナカル可シト雖モ然レトモ既ニ柴草肥料等ト云ヘルヲ以テ其構造及ヒ使用上柴草肥料ヲ貯藏スル屋舎ト同様ナル者例ヘハ石灰製造小屋ノ如キ屋舎ヲ指スモノト解スルヲ穩當ナリトス

本條ノ廢屋其他ノ屋舎モ亦其所有權ノ他人ニ屬スルコトヲ要ス而シテ其自己

刑

法

ノ所有スル廢屋等ヲ燒燬シタル場合ハ我刑法上之ヲ罰スルノ正條ナシ

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

本條ハ船舶汽車ヲ燒燬シタル者ノ罪ヲ定ム

本條第一項ノ人ヲ乘載シタル船舶汽車トハ其乘組員ト乘客トヲ問ハス現ニ何人カノ乘込メル船車ノ謂ニシテ而シテ其第二項ノ人ヲ乘載セサル船舶汽車トハ乘客ハ勿論乘組員等ノ一人モ現在セサル船車ヲ謂フ

第四百二條ニ於テ人ノ住居シタル家屋トハ唯平常人ノ居住セル家屋ノ謂ニシテ放火ノ當時現ニ其家人ノ在ルコトヲ要セスト説キ而シテ本條ニ於テ人ヲ乘載シタル船舶汽車トハ放火ノ當時現ニ何人カノ乘込メル船車ノ謂ナリト説クトキハ二者ノ解釋相抵觸スル所アルニ似タリ然レトモ家屋ハ吾人ノ常住ス可キモノナレハ偶々其家人ノ不在ナルコトアルモ尙ホ所謂人ノ住家タルノ性質ヲ

失ハス之ニ反シテ船舶汽車ハ吾人ノ一定ノ居處ニ非ス唯荷物運送又ハ旅行ノ爲メ一時乘載スルニ過キサルモノナレハ其現ニ人ノ乘込ミ居ル場合ニ非サレ

刑

法

刑

ハ之ヲ目シテ所謂人ヲ乘載シタル船舶汽車ト云フヲ得ス且ツ家屋ニ在テハ偶々其家人ノ不在ナルコトアルモ必ス多少ノ財寶ヲ蓄藏セルヲ以テ之ヲ燒燬スルトキハ其害至テ大ナリ之ニ反シテ現ニ人ノ乘載セル船舶汽車ニ在テハ財寶ヲ蓄藏スル場合少ナク隨テ之ヲ燒燬スルモ其害敢テ多カラス是レ家屋ニ在テハ現ニ人ノ在ラサル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ人ノ住居シタル家屋ト爲シテ之ヲ燒燬スル者ヲ死刑ニ處シ而シテ船舶汽車ニ在テハ現ニ人ノ乘載セル場合ニ放火スル者ノミヲ死刑ニ處スルノ區別アル所以ナリ

本條第一項ハ專ラ人命保護ヲ目的トシテ規定シタルモノナレハ其船舶汽車ノ自己ノ所有ニ屬スル場合ト雖モ尙ホ之ヲ罰シ而シテ第二項ハ唯財產保護ヲ目的トシテ規定シタルモノナレハ其船舶汽車ノ他人ノ所有ニ屬スル場合ノミ之ヲ罰シ其自己ノ所有ニ屬スル場合ハ之ヲ不問ニ付セサル可カラス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ニ於テハ放火罪ノ物躰中其最も重要ナラサルモノヲ列擧セリ而シテ所謂

刑

法

山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木等ニ付テハ別ニ其説明ヲ要セス唯一言ス可キハ其他ノ物件トハ如何ナルモノヲ包含スルヤノ點是レナリ蓋シ廣ク其他ノ物件ト云ヘルヲ以テ前數條及ヒ本條ニ列擧セル物ノ外總テノ物件ヲ指スカ如シト雖モ然レトモ衣服器具等ノ如キ物マテヲモ包含スルノ意ニ非サル可ケレハ余ハ唯山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草等ニ類似スル物件例ヘハ山野ノ芝草又ハ露積シタル煤炭ノ如キ物件ノミヲ包含スルモノト解釋スルヲ穩當ナリト信ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ノ罪ヲ規定ス

既ニ説明セル如ク放火ノ罪ヲ以テ財產ニ對スル罪即チ他人ノ財產權上ノ利益ヲ害スル罪ト爲ストキハ自己ノ家屋ニ放火スルノ所爲ハ之ヲ罪トシ罰スルヲ得ス何トナレハ自己ノ所有物ハ民法上自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルヲ以テ之ヲ毀壞スルモ將タ之ヲ燒燬スルモ他ヨリ何等ノ容喙ヲ受クルノ理ナク又之カ爲メ毫モ他ノ財產權上ノ利益ヲ害スルノ謂レナケレハナリ然レトモ法律カ

刑

此罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ノ中ニ排列シタルハ唯其編纂ノ順序ヲ誤リタルノ
ミニシテ其性質ハ依然トシテ社會ノ安寧ヲ害スル罪ナル可ク而シテ假令自己
ノ家屋ニ放火スルモ公衆ノ危難ヲ釀成スルコトハ敢テ他人ノ家屋等ニ放火ス
ル場合ト異ナルコトナケレハ立法者モ亦特ニ本條ノ規定ヲ設ケ以テ自己ノ家
屋ヲ燒燬シタル者ヲモ處罰シタル所以ナリ

法

夫レ然リ放火ノ罪ハ他ノ財産ヲ害スルヨリモ寧ロ社會ノ安寧ヲ害スルカ爲メ
之ヲ罰スルモノト爲ストキハ唯自己ノ家屋ニ放火シタル場合ノミヲ罰スルニ
止メス建造物ハ勿論廢屋其他ノ屋舎等ニ放火スル場合ヲモ之ヲ處罰セサル可
カラス然ルニ本條ノ獨リ自己ノ家屋ニ放火スル場合ノミヲ規定シ其他ノ場合
ヲ掲ケサリシハ蓋シ法ノ欠點ナリト謂ハサルヲ得ス
尙ホ本條ニ所謂自己ノ家屋中ニハ同居人アル場合及ヒ賃貸セル家屋ニシテ他
人ノ住居スル場合ヲ包含セサルコトハ既ニ第四百二條ノ下ニ於テ説明シタル
所ナレハ今復タ贅セス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

刑

本條ハ之ヲ講述スルノ要ナシ

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス

本條ニ於テハ失火ノ罪ヲ定ム

火ヲ失スルトハ過失即チ疎虞懈怠ニ因リ過テ火災ヲ起スヲ謂フ故ニ不可抗力
等ニ因リ疎虞懈怠ノ認ム可キ點ナキトキハ之ヲ不問ニ付セサル可カラス

本條ニハ廣ク家屋財産トアレトモ所謂財産ナル語中ニハ總テノ物件ヲ包含ス
ルニ非ス唯前數條ニ規定セル建造物、廢屋、船舶、汽車又ハ山野ノ竹木、穀麥等ノ如
キ物件ノミヲ指スモノト解セサル可カラス何トナレハ前數條ニ規定セル以外
ノ物件ニ對シテハ之ニ放火スルモ尙ホ罰セサルニ失火ノ場合ニ之ヲ處罰スル
ノ理ナケレハナリ

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ

毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルトヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ニ於テハ破裂質ノ物品ヲ以テ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ノ罪ヲ定ム故

ニ本條ノ罪ハ其性質放火失火ノ罪ニ非スシテ唯其刑ヲ放火失火ノ例ニ準シテ處罰スルノミ而シテ本條ノ罪ノ第十節家屋物品ヲ毀壞スル罪ノ罪ト異ナルハ唯犯罪ノ手段トシテ火藥激發物等ヲ用キタルト否ト名點ニ在リトス

第八節 決水

本節ノ罪モ亦前節ノ罪ト同シク其性質ハ公衆ノ安寧ヲ害スル罪ナリ然ルニ之ヲ私罪ノ一タル財産ニ對スル罪ノ章下ニ編入シタルハ蓋シ立法者ノ粗漏ト謂ハサルヲ得ス

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ニ於テハ決水ニ因リ他人ノ家屋建造物ヲ漂失シタル者ノ罪ヲ定ム而シテ本條ノ罪ノ構成スルニハ(第一)堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルコト(第二)家屋建造物ヲ漂失スルコト(第三)故意アルコトノ三要素ヲ具備セサル可カラズ
第一ノ要素 法律ハ此罪ノ手段ヲ以テ堤防決潰ト水閘毀壞トノ二者ニ制限

法

刑

刑

法

シタルニ因リ本條ノ罪ノ構成スルニハ必ス此二者ノ手段ニ出テタルコトヲ要ス故ニ例ヘテ堤防ヲ増築シ水閘ヲ閉鎖シテ以テ水勢ヲ漲溢セシメ人ノ家屋建造物ヲ漂失セシムル者アルモ之ヲ罰スルヲ得ス然レトモ前者ノ場合ト後者ノ場合トノ間一ハ之ヲ罰シ一ハ之ヲ不問ニ付スルノ區別アルノ理由ナカル可ケレハ立法者カ特ニ犯罪ノ手段ヲ前二者ノ場合ニ制限シタルハ甚シキ不注意ト評下セサルヲ得ス

第二ノ要素 人ノ住居シタル家屋又ハ人ノ住居セサル家屋若クハ其他ノ建造物等ノ語ニ付テハ既ニ前節ニ於テ之ヲ說了セリ唯茲ニ説明ス可キハ所謂漂失トハ如何ナルモノナルヲ讀テ字ノ如ク家屋建造物ノ漂ヒ失セタルコトヲ要スルノ意ナルヤ又ハ唯其基礎ヲ離レタルノミヲ以テ足レリトスルヤ將タ又洪水横溢其床上ニ浸入シタルノミノ場合ヲモ包含スルヤ蓋シ文辭上嚴格ニ解スルトキハ家屋建造物ノ河海等ニ漂流シテ其形ヲ失フノ意ナルカ如シト雖モ然レトモ家屋建造物ノ既ニ其基礎ヲ離レ少許タリトモ他ニ轉シタルトキハ最早其儘之ヲ使用スルコト能ハサルヲ以テ是レ亦所謂漂失ノ中ニ包含スルモノト

解セサル可カラス但單ニ其床上ヲ浸シタルノミニシテ毫モ其基礎ヲ離レサル場合ハ之ヲ目シテ漂失ト云フヲ得故ニ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞スルモ唯其水勢ノ床上ヲ浸シタルノミニ止マル場合ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得是レ亦立法者ノ粗漏ト云ハサル可カラス

第三ノ要素 此罪モ亦總則ノ適用ニ因リ故意アルコトヲ要ス故ニ家屋建造物ヲ漂失セシメント欲スルノ意思又ハ其漂失スルコトアル可キヲ豫知スルノ意思ナカリシトキハ之ヲ罰スルヲ得ス但過失ノ有無ニ因リ後ノ第四百十四條ハ罪ト成ルコトアルハ格別ナリ

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑收場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ唯其被害ノ物躰前條ニ比シテ輕キニ因リ其刑ヲ減輕シタルニ過キス其他別ニ講述スルノ要ナカル可シ

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

刑

法

金ヲ附加ス

本條ノ罪ハ洪水ノ時ヨリモ寧ロ旱魃ノ際ニ於テ多ク農民間ニ在テ起ル所ナリ故ニ之ヲ洪水ノ罪ト云ハンヨリ廣ク水利ヲ妨害スルノ罪ト云フヲ以テ愈レリトス

本條ニ於テハ堤防決潰水閘毀壞ノ外汎ク水利ヲ妨害シタル云々ノ語ヲ使用シタルニ因リ堤防ヲ増築シ又ハ水閘ヲ閉鎖シ其他如何ナル手段ニ出ツルヲ問ハス苟モ水利ヲ妨害シタルノ事實アルトキハ皆之ヲ處罰スルコトヲ得然レトモ法文ニ特ニ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ云々ト明記シタルヲ以テ本條ノ罪ニ付テハ單純ノ故意アルノミニテハ未タ足レリトセス必ス他ヲ害シ自己ヲ利スルノ特別ノ犯意アルコトヲ要スルモノト知ル可シ

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ別ニ説明セス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス

刑

法

但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

右兩條ニ於テハ船舶ヲ覆没スル罪ヲ定ム今此罪ノ要素ヲ分析スルトキハ第一衝突其他ノ所爲ヲ施スコト第二船舶ヲ覆没スルコト第三故意アルコトノ三者ヨリ成ル

刑 法

第一ノ要素 衝突トハ之ヲ廣ク見ルトキハ他ノ船舶又ハ暗礁其他ノ障礙物ニ衝キ當ルノ意ナルカ如シト雖モ今日船舶ノ衝突ト云フトキハ唯船舶ト船舶トノ衝突ノ意ニシテ其他ノ物件ニ衝キ當ル場合ハ之ヲ衝突トハ云ハス故ニ暗礁又ハ其他ノ障礙物ニ衝キ當リ船舶ヲ覆没スル場合ハ本條ニ所謂其他ノ所爲中ニ包含スルモノト解セサル可カラス

其他ノ所爲トハ右ニ述フル場合ノ外或ハ船舫ニ穴ヲ鑿チ或ハ水雷火ヲ投スルカ如キ所爲ヲ總稱ス

第二ノ要素 船舶ニ付テハ其形狀大小ヲ區別セサルヲ以テ洋船ト和船トヲ問ハス又洋海ヲ馳驅スル大船ト河川ヲ往來スル小船トヲ論セス總テ此罪ノ物

刑

法

跡タルコトヲ得

覆没トハ即チ水中ニ顛覆シ沈没スルノ謂ナレハ夫ノ坐礁膠砂シテ船舶ノ進行ヲ止メタル場合ノ如キハ之ヲ包含セス是レ蓋シ法ノ欠點ナラン

第三ノ要素 此罪ニ付テハ或ハ特定ノ船舶ヲ覆没セントスル故意アルコトヲ要ス故ニ唯一般ノ船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標等ヲ破壊シ其結果船舶ヲ覆没シタルトキハ第六十九條ニ依リ之ヲ處罰セサル可カラス

以上三個ノ要素ヲ具備スルトキハ則チ本節ノ罪ヲ成ス而シテ此罪ハ其被害ノ物舫ノ異ナルニ從ヒ其刑罰ヲ同フセス即チ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シ且ツ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處シ其死亡者ナキトキハ無期徒刑ニ處シ又人ヲ乗載セサル船舶ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス是レ其吾人ノ生命ニ危險アルト否トニ因テ此ノ輕重ノ區別ヲ設ケタルモノナリ

夫レ此ノ如ク第四百十五條ノ罪ハ主トシテ人命ノ危險ヲ慮カリテ設ケタルモノナレハ其船舶ノ自己ノ所有ニ屬スル場合ト他人ノ所有ニ屬スル場合トヲ分タス苟モ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ該條ノ制裁ヲ免カル、ヲ得ス

之ニ反シテ第四百十六條ノ罪ハ唯財産ニ對スル罪ナルヲ以テ其船舶ノ自己ノ所有ニ屬スル場合ハ之ヲ罰セス他人ノ所有ニ屬スル場合ノミ該條ヲ適用スルモノトス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ニ於テハ人ノ家屋建造物ヲ毀壞シタル者ノ罪ヲ定ム

人ノ家屋建造物トハ他人ノ所有ニ屬スル家屋建造物ノ謂ナリ故ニ自己ノ所有スル家屋建造物ニ付テハ假令之ヲ他人ニ賃貸シ又ハ抵當ト爲シタル場合ト雖モ本條ノ罪ノ物躰ト爲ラス然レトモ既ニ他人ニ賃貸シ又ハ抵當ト爲シタル物ヲ毀壞スルトキハ其賃借人又ハ抵當債權者ノ權利ヲ害スルヲ以テ此等ノ場合ニ於テハ第三百七十一條及ヒ第三百九十六條ノ例ニ倣ヒ特ニ之ヲ罰スルノ規定ヲ設クルヲ可トス

刑 法

刑

法

毀壞トハ腕力的手段ヲ以テ家屋建造物ノ實躰ヲ破却シ若クハ其形狀ヲ損害スルノ所爲ヲ云フ故ニ例ヘハ虚偽ノ風説ヲ流布シテ其價格ヲ下落シセムルカ如キ無形的ノ手段ニ出テ以テ他ノ財産ヲ害スル場合ハ本條ノ罪ニ非ス又火力若クハ水力ヲ以テ家屋建造物ヲ毀壞スル場合ハ別ニ其規定(本章第七節及ヒ第八節)アルニ因リ本條ノ支配スル所ニ在ラサルナリ

本條ノ罪ニ付テモ亦他ノ一般ノ罪ト同シク故意即チ罪ヲ犯スノ意思アルコトヲ要ス故ニ過失ニ出テ之ヲ毀壞スルノ意思ナキ場合ハ勿論又ハ假令毀壞スルノ意思アルモ毫モ他ヲ害スルノ意思ナキ場合例ヘハ友人ノ不在中其家屋ヲ修繕センカ爲メニ之ヲ取毀ツトキノ如キハ之ヲ罰スルノ限ニ在ラサルヤ言ヲ埃タス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ規定ニ付テハ前條ノ解釋ヲ參照スルトキハ其意義自ラ明瞭ナル可ケレ

ハ今別ニ之ヲ説明セス唯一言ス可キハ所謂牆壁トハ家屋ノ外部ヲ圍繞スル門戸牆壁ノ謂ニシテ家屋ニ附着シ其一部分ヲ成ス所ノ壁ノ謂ニ非スト云フコト是ナリ

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重

禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ニ於テハ植物毀損ノ罪即チ俗ニ謂フ所ノ野暴ノ罪ヲ規定ス

稼穡竹木ニ付テハ別ニ説明セス其他需用ノ植物トハ必スシモ吾人ノ生活ニ必要ナル植物ノミヲ指スニ非スシテ其娛樂ノ爲メニ栽培スル所ノ植物ヲモ包含ス而シテ夫ノ雜草ノ如キモ或ハ肥料ノ爲メ或ハ秣ノ爲メニ生育スルコトアレハ是レ亦強チ無用ノ植物ナリト云フヲ得ス要スルニ需用ノ植物ナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ナレハ事實裁判官ノ認定ニ委スルノ外ナシ

法律ハ家屋建造物等ニ付テハ毀壞ノ文字ヲ用ヒ植物ニ付テハ毀損ノ語ヲ用ヒ動物ニ對シテハ殺害ト云ヒ器物ニ付テハ毀棄ト云ヒ而シテ證書類ニ對シテハ毀棄滅盡ト云ヘリ是レ唯其物ノ異ナルニ從ヒ適當ノ文辭ヲ使用シタルニ過キ

刑

法

スシテ別ニ其間ニ區別ヲ立ツルノ意ニ非ス故ニ本條ノ毀損ノ所爲ニ付テモ亦前條ノ毀壞ノ所爲ト同シク腕力的ノ手段ヲ以テ之ヲ犯スコトヲ要シ夫ノ口舌ヲ以テ其市價ヲ下落セシムルカ如キ場合ハ之ヲ罰スルヲ得ス但第二百七十二條ノ罪ハ格別ナリトス

茲ニ注意ス可キハ本條ノ罪ト第三百七十二條及ヒ第三百七十三條ノ盜罪トノ區別ヲ明カニスルコト是ナリ蓋シ盜罪トハ目的物件ヲ他人ノ所持内ヨリ竊取シ之ヲ自己ノ所持内ニ移スノ謂ナレハ則チ第三百七十二條及ヒ第三百七十三條ノ罪ハ穀類竹木ヲ田野山林ヨリ奪ヒ去リ之ヲ犯人ノ所持内ニ移スニ成リテ而シテ本條ノ罪ハ其穀類竹木ヲ奪ヒ去ルニ非ス其生育セル場所ニ於テ其儘之ヲ毀損スルニ成ル故ニ假令其植物ヲ毀損スルノ意思ニテモ之ヲ田野山林ヨリ奪取シ去リ自己ノ所持内ニ入リタル後ニ毀損シタル場合ハ本條ノ罪ニ非スシテ第三百七十二條若クハ第三百七十三條ノ盜罪ト爲ル可シ

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑

法

刑 法

本條及ヒ第四百二十四條ノ罪ハ其性質單純ナル物件毀壞ノ罪ニ非スシテ寧ロ一般ノ信用ヲ害スル罪ノ一タル文書偽造罪ト其性質ヲ同フス即チ土地ノ經界ヲ表スル物件又ハ權利義務ニ關スル證書類ハ單ニ物件又ハ證書類トシテ其價值ヲ有スルニ非スシテ土地又ハ權利義務ノ證明ノ具トシテ其價值ヲ有スルコト猶ホ夫ノ一般ノ文書ノ權利證明ノ具トシテ其價值ヲ有スルカコトシ左レハ本條及ヒ第四百二十四條ノ罪ハ本節中ノ他ノ各條ノ罪ト異ナリテ法律ノ保護セント欲スル所モ亦其毀壞サル、物件其者ニ非スシテ却テ其物件ニ依リテ證明サル、所ノ權利ニ在リトス故ニ嘗テ文書偽造罪ノ總論中ニ於テ講述シタル如ク若シ我刑法ニ於テ他日獨逸法ニ則トリ文書偽造罪ノ區域ヲ擴張シテ廣ク證據偽造ノ罪ト爲スニ至ルトキハ本條ノ罪ノ如キハ正ニ其中ニ編入セラル可キモノナリト信ス

夫レ然リ我立法者モ亦本條及ヒ第四百二十四條ノ罪ノ單純ナル物件毀壞ノ罪ニ非サルコトニ想及シタルモノト見ヘ本條ニ於テ物件毀壞ニ關係ナキ經界標ノ移轉ノ場合ヲ罰シ又第四百二十四條ニ於テハ其毀壞セラル、物件(證書類ニ

刑 法

比シテ大ニ其刑ヲ重クシ且ツ第四百二十四條ノ罪ト同往質ナル官文書ノ毀棄ヲ以テ之ヲ文書偽造罪中ニ編入シタリ第二百二條及第二百三條第二項而シテ本條ノ罪ヲ以テ之ヲ信用ヲ害スル罪ノ中ニ編入セザリシハ今日ノ刑法上敢テ深ク咎責スルニ足ラスト雖モ同一ノ文書毀棄ノ所爲ナルニ拘ハラヌ官文書ニ在テハ之ヲ文書偽造罪中ニ編入シ私文書ニ在テハ之ヲ本節中ニ編入シタルニ至テハ余其猛浪杜撰ナルニ驚カスンハアラス

本條ニ於テハ經界物件ノ毀壞又ハ移轉ノミヲ罰シ新ニ偽造ノ經界物件ヲ建設スル場合ヲ罰セス而シテ經界物件ヲ毀壞シ又ハ移轉スル場合ト新ニ偽造ノ經界物件ヲ建設スル場合トノ間他ノ權利ヲ害スルノ程度及ヒ其罪狀ニ於テ敢テ甲乙ナカル可キニ一ハ之ヲ罰シ一ハ之ヲ罰セサルハ是レ亦立法者カ本條ノ罪ノ性質ヲ誤リ之ヲ物件毀壞罪中ニ編入シタルノ結果ナリトス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

人ノ器物トハ他人ノ所有ニ屬スル日用ノ什器其他總テノ無機物動産ヲ謂フ夫

ノ自カヲ以テ行動スル有機物動産即チ禽獸ノ如キハ之ヲ器物ト稱スルヲ得サルノミナラス後條ニ於テ別ニ其重要ナル者ノミヲ保護スルノ規定アルニ因リ本條ノ器物中ニ包含セサルヤ明カナリトス
毀棄トハ文辭ノ上ヨリ見レハ毀チ棄ツルナリ然レトモ必スシモ毀壞シ且ツ遺棄スルコトヲ要スルニ非ス故ニ其實質ヲ破却スルモ又其外觀ノミヲ損傷スルモ又之ヲ破損シタル儘其所有主ノ所持内ニ放擲シ置クモ共ニ所謂毀棄中ニ包含ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ニ於テハ家畜類中最モ重要ナル牛馬ヲ殺シタル者ノ罪ヲ定ム而シテ夫ノ綿羊ノ如キモ今日ニ在テハ敢テ牛馬ニ讓ラサル必要家畜ナリト雖モ刑法制定ノ當時ニ於テハ未タ一般ニ其需用ヲ知ラサリシモノト見ヘ立法者モ亦之ヲ缺漏セリ後日刑法改正ノ際之ヲ補足シテ可ナリ
牛馬ヲ殺シタル者トアルヲ以テ單ニ之ヲ毆打シテ傷ヲ成スニ止マル者ハ勿論

刑 法

刑

法

假令之ヲ殺スノ目的ニテ刀ヲ加ヘタルモ未遂ノ場合ハ之ヲ罰スルヲ得ス何トナレハ本條ノ罪ハ輕罪ナルニ其未遂犯ヲ罰スルノ特條ナケレハナリ第四百十三條第二項
或ル學者ハ此點ニ付テ奇怪ナル論決ヲ與ヘ未遂ノ場合ハ前條ノ器物毀棄罪トシテ之ヲ罰スト説ケリ然レトモ牛馬其他ノ家畜類ハ之ヲ器物ト云フヲ得サレハコソ立法者モ特ニ本條及ヒ次條ノ規定ヲ設ケタルモノナレ然ルニ其殺害ノ場合ハ之ヲ牛馬其他ノ家畜トシテ之ヲ本條及ヒ次條ニ依リテ罰シ其創傷ノ場合ハ之ヲ器物トシテ前條ニ依リテ罰スルヲ得ル乎若シ得ルモノトセハ次條ノ家畜ヲ殺シタル者ハ金刑ニ止マリ且ツ一ノ親告罪ナルニ其未遂ノ場合ハ刑法ニ處セラレ且ツ被害者ノ告訴ナキニ起訴セラル、ニ至ル刑法ハ斯カル不權衡ニシテ而カモ變轉究リナキ猫眼的解釋ヲ許スヤ否ヤ

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

家畜トハ其禽獸ノ性質上吾人ノ家庭ニ於テ畜養セララル、モノヲ云フ例ヘハ豕、鶏、鳩、猫、犬、等ノ如シ故ニ夫ノ馴養師カ畜養セル獅子、虎、熊、等ノ如キハ之ヲ所謂家

畜ト云フヲ得ス但是等ノ獸類ト雖モ其馴養師ニ取テハ貴重ナル財産ナル可ク
レハ特ニ之ヲ保護スルノ規定ヲ設クルヲ以テ可トセン歟
本條ノ罪ハ一ノ親告罪ナリ是レ其加害ノ程度輕微ナルニ因リ被害者ノ告訴ナ
キニ直チニ之ニ干渉スルノ必要ナキニ由ル

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下
ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

權利義務ニ關スル證書類トハ單ニ財産上ノ權利義務ニ關スル證書類ノミヲ指
スニ非ス公權利私權利ニ關スル總テノ證書類ヲ包含スルコト曾テ第二編ニ於
テ講述シタル所ナリ第二百十條參看而シテ權利義務ニ關係ナキ其餘ノ私書ヲ毀棄ス
ル場合ハ刑法中ニ正條ナキヲ以テ之ヲ不問ニ附スルノ外ナシ
毀棄滅盡トハ有効ニ成立シタル證書類ノ信憑力ヲ失ハシムルノ謂ニシテ而シ
テ其性質及ヒ効果ハ夫ノ文書ノ偽造變造ト同一ナルコト是レ亦前編第二百三
條ニ於テ詳説シタル所ナリ

第四編 違警罪

刑

法

刑

法

違警罪トハ即チ警察規則違反ノ罪ノ謂ニシテ其性質他ノ重罪輕罪ト異ナリ一
般ニ犯意ノ有無ヲ問ハス警察取締上ノ必要ヨリシテ其刑ヲ科スルモノナリ而
シテ犯意ノ有無ヲ問ハス其刑ヲ科スト曰フト雖モ其犯人ニシテ毫モ過失即チ
疎虞怠懈ノ資ム可キ點ナキトキハ之ヲ罰スルヲ得ス何トナレハ正當ノ權利ノ
實行若クハ偶然ノ事爲ヨリ生シタル結果ニシテ一點過失ノ認ム可キナキ者ヲ
罰スルハ社會刑罰權ノ本旨ニ於テ容サ、ル所ナレハナリ
然レトモ本編ノ規定ヲ審查スルトキハ單ニ警察規則違反ノ罪ノミニ非スシテ
寧ロ他ノ重罪輕罪ト同性質ナル罪ヲ混同スルヲ見ル例ヘハ人ヲ毆打シテ創傷
疾病ニ至ラサル者第四百九條違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者同條公
然人ヲ罵詈嘲弄シタル者第四百六條路上ノ植物市街ノ常燈及ヒ圃場等ヲ毀損
シタル者第七條他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シタル者第四百九條十ノ
如キ是ナリ此等ノ罪ハ其性質夫ノ毆打劍傷ノ罪偽證ノ罪誹毀ノ罪家屋物品ヲ
毀壞スル罪竊盜ノ罪ト全然同一ニシテ唯其犯情ノ極メテ輕微ナルニ過キス隨
テ又其犯意アル者ニ非サレハ之ヲ罰スルヲ得ス故ニ此點ヨリシテ之ヲ見ルト

キハ違警罪トハ警察規則違反ノ罪ナリト云ハンヨリ寧ロ廣ク拘留料科ノ刑ヲ以テ處罰スル輕微ナル犯罪ナリト云フヲ當レリトス

我刑法ハ重罪輕罪ニ付テハ其罪ノ性質ニ從ヒ之ヲ會萃分類スルノ方法ヲ採用シテ而シテ違警罪ニ付テハ其罪ノ輕重ニ依リ之ヲ聚合列記スルノ方法ヲ採用セリ是レ蓋シ重輕罪ニ在テハ其罪ノ種類甚タ多ク單ニ其輕重ニ從ヒ之ヲ臚列スルトキハ煩雜錯綜容易ニ罪刑ノ如何ヲ知ルコト能ハサルノ不便アルモ之ニ反シテ違警罪ニ在テハ其罪少ナク隨テ之ヲ混同列記スルモ敢テ適用上ニ不便ヲ來スノ恐ナケレハナリ以下各條目ヲ追ヒ簡單ニ其疑義ノ存スル點ヲ説明セン

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上

一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂不可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂不可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

刑

法

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火籠ヲ建築修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移轉シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定マリタル住居ナク平常營生ノ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲比スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時

ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

本條ニ於テハ違警罪中其最モ重キ十四種ノ罪ヲ羅列セリ而シテ此諸條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料科

刑

法

中二者其一ニ處セラレ但違警罪ハ極メテ輕微ノ罪ナルヲ以テ常ニ之ニ對シ自由刑(拘留)ヲ科スルハ法律ノ本旨ニ非ス故ニ法文ニハ拘留又ハ科料ニ處ストアレトモ寧ロ其科料ニ處スルヲ以テ正則ト爲シ唯罪情ノ重キ異常ノ場合ニ於テ始メテ拘留ノ刑ヲ適用スルヲ允當ナリトス

刑

法

本條第一號其他本編各條中規則ト稱スルモノニハ全國一般ニ及フモノト一地方ニ限ルモノトアリ而シテ其一地方ニ限ルモノ最モ多キニ居ルヲ以テ今違警罪ノ條目ヲ詳說セントセハ勢ヒ全國各地方ノ制定ニ係ル總テノ諸規則ヲ涉獵セサル可カラス然レトモ是レ容易ノ業ニ非サルノミナラス其煩勞ニ價スル功益ヲ見ルコト能ハサル可ケレハ今ハ之ヲ省略ス讀者若シ實際必要ノ場合ニ臨マハ中央又ハ各地方ノ規則類ヲ搜索シ其用ヲ辨シテ可ナリ
火藥其他破裂ス可キ物品トアリ故ニ明治十七年第三十一號布告火藥取締規則ニ所謂火藥及ヒ劇發火藥綿火藥ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞等ハ勿論其他劇發破裂ノ性質ヲ有スル物品ハ總テ此中ニ包含スルモノトス
市街ニ運搬シタル者トアルヲ以テ村落ニ運搬シタル者ハ之ヲ罰セス是レ村落

刑

法

ハ市街ト異ナリテ人煙稀薄ノ場所ナレハ濫ニ火藥等ヲ運搬スルモ敢テ之ヲ處罰スル程ノ危險ナキニ由ル可シ
第四號ニハ人家稠密ノ場所トアリテ市街トナシ故ニ市街ナルト村落ナルトヲ問ハス苟モ人家稠密ノ場所ナレハ則チ本號ニ該當ス而シテ其人人家稠密ナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニ屬ス
濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者トアリ故ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ爲ス者ハ本號處罰ノ限ニ在ラス
第五號ノ蒸氣器械等ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ヲ遵守スルノ義務ハ其所有主ト賃借人トヲ問ハサルヲ以テ若シ賃借人ニ於テ其賃借物ヲ修理シ又ハ掃除スルノ規則ニ違背シタルトキハ亦本號ノ制裁ヲ免カル、ヲ得ス
第六號ニハ官署ノ督促ヲ受ケ云々トアルヲ以テ未タ一回モ警察官吏ヨリ修理ノ督促ヲ受ケサル者ハ假令崩壞セントスル家屋牆壁ヲ其儘ニ放置スルモ之ヲ罰スルヲ得ス
本號ニハ家屋、牆壁(家屋ノ外圍タル門戶牆壁)ヲ指ストノミアリテ崩壞セントス

ル樹木ヲ伐採セサル場合ノ如キヲ豫定セス是レ蓋シ法ノ欠点ナリ又家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者トノミアリテ其除去ヲ爲サ、ル場合ヲ規定セス蓋シ家屋牆壁ノ老朽シテ修理ニ堪ヘサルモノハ之ヲ除去ヒシムルヲ以テ可トス可キニ法律ハ單ニ其修理ヲ督促スルコトヲ許シ其除去ヲ命スルコトヲ許サス是レ亦立法者ノ不注意ナラン

刑

法

第七號ノ官許云々トハ明治十年二月第二十二號布告ヲ以テ規定スル所ノ手續ヲ經サルヲ云フ
第八號ノ自己ノ所有地内トハ單ニ自己ノ所有ニ屬スル土地内ノミヲ指スニ非スシテ其賃借セル土地内ヲモ包含ス而シテ本號ノ規定ト第二百六十四條トノ關係ニ付テハ既ニ該條ノ下ニ於テ詳論セリ故ニ今復贅セス
第十一號ノ人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル罪ハ第七十一條及ヒ第七十二條ノ人ノ住居シタル邸内ニ侵入スル罪ニ對スル規定ナリ而シテ人ノ住居シタル邸内ニ侵入スル者ハ其人ノ住居權ヲ侵スノミナラス他ノ身體又ハ財產ニ對スル罪ヲ犯スノ危險アルヲ以テ之ヲ重ク罰スルノ必要アルモ人ノ住居セ

刑

法

サル家屋内ニ潜伏スル者ハ是等ノ危險ナキニ因リ法律ハ唯本號ヲ以テ之ヲ處罰スルニ止メタリ然レトモ本號ニハ家屋内トアリテ邸内ト記サス又建造物内ニ潜伏スル場合ヲモ罰セス且ツ晝夜ノ間ニ其刑ノ區別ヲ設ケス唯之ヲ輕々ニ規定シタルハ余ノ惜ム所ナリ

第十二號乃至第十四號ノ規定ニ付テハ別ニ之ヲ説明セス

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以

上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二 水其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

三 不熟ノ藥物又ハ腐敗シタル飲食ヲ販賣シタル者

四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五 人ノ通行ス可キ場所ニ在ル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者

六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシメタル者

七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ違警罪中前條ニ次テ重キ罪ヲ羅列セリ

第一號ノ規定ニ付テハ別ニ之ヲ説明セス

第二號ノ官吏トハ當該官吏ノ謂ニシテ廣ク一般ノ官吏ヲ指スニ非ス又防禦ス

可キノ求メヲ受ケ云々トノミアレトモ救援ス可キノ求メヲ受ケ傍觀シテ肯セ

サル者モ亦本號ニ依リ處罰セラル可シ何トナレハ水火ノ難ヲ救援スルハ即チ

其害ヲ防禦スルト同一ナレハナリ又傍觀シテ肯セサル者トアルニ因リ防禦ス

可キノ求メヲ受ケ之ヲ肯セスシテ直チニ其場ヲ逃ケ去リタル者ハ無罪ナリト

第三號ノ規定ニ付テハ既ニ第二百五十三條ニ於テ之ヲ説明セリ唯一言ス可キ

刑 法

ハ本號ニ販賣シタル者トアルニ因リ之ヲ無代價ニテ飲食セシメタル者ハ罰ス
ルヲ得ス但其物品ノ健康ヲ害スルニ足ルモノナルトキハ時ニ第三百七條ノ罪
ト成ルコトアル可シ

刑

法

第四號ノ健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則トハ市街掃除、廁構造、尿尿汲取、氷製
造販賣、諸獸屠場及ヒ賣肉、牛乳搾取其他娼妓、徵毒検査等ニ關スルモノヲ云フ又
傳染病豫防規則トハ明治十三年七月第三十四號布告ノ外一地方ニテ制定スル
モノヲモ包含ス而シテ本號下段ノ罪ト第二百四十六條以下ノ罪トノ關係ニ付
テハ既ニ述ヘタル所アルヲ以テ今之ヲ復説セス

第五號ノ冒頭ニ所謂人トハ衆人ノ謂ナリ其他別ニ説明ス可キ點ナシ
第六號乃至第九號ノ規定ニ付テモ亦之ヲ講述スルノ必要ヲ見ス

第十號ノ墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル罪ハ其性質夫ノ第二
百六十三條ノ罪ト同シク社會ノ風俗ヲ害スルノ罪ナリ而シテ二者ノ間ノ區別ハ
事ノ公然タルト否ト彼ニ在テ廣ク不敬ノ所爲ヲ罰スルモ此ハ唯毀損、汚瀆ノ所
爲ヲ罰スルトニ在リ

十六道路橋樑其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

本條ニ於テハ違警罪中第三位ニ次スル罪ヲ羅列セリ

本條第一號ニハ濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者トアルニ因リ車馬ヲ疾驅スルモ正當ノ事由アル者又ハ正當ノ事由ナクシテ車馬ヲ疾驅スルモ行人ノ妨害ヲ爲サ、ル者ハ之ヲ罰スルヲ得ス

第二號ニ單ニ制止ヲ肯セスシテ云々トアレトモ是レ當該官吏ノ制止ヲ肯セサルノ意ナリト知ル可シ

第三號ノ規定ニ付テハ明治十五年四月第二十二號達ヲ以テ軍人制服ヲ着用シ乘馬シタル者ハ燈火ナクシテ疾驅スルコトヲ得トノ例外法ヲ定メラレタリ就テ見ル可シ

第五號ノ家屋園圃トハ他人ノ所有スル家屋園圃ノ意ナリ何トナレハ自己ノ家屋園圃ニ瓦礫ヲ投擲スルモ之ヲ罰スルノ理ナケレハナリ

第七號ノ汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者トアル家屋園圃トハ前ニ説明スル如ク他人ノ所有ニ係ル家屋園圃ノ意ナリ而シテ汚穢物ヲ道路家屋等ニ投

刑

法

擲セス之ヲ水路ニ投棄シタルトキハ第二百四十三條ノ重キ罪ト爲ルコトアル可シ

第八號ニ所謂ル警察ノ規則トハ寄席取締、旅人宿取締、揚弓店取締、雇人請宿取締、湯屋取締、兩替屋取締、旅客汽船取締及ヒ馬車取締、人力車取締等ニ關スルモノヲ云フ

第九號ノ醫師トハ開業醫ヲ指ス故ニ醫師ノ免許アル者ニテモ開業セサル者ハ本號ノ罪ノ主體ト爲ルコトヲ得ス又所謂ル急病人ノ中ニハ産婦ノ分娩ノ場合ヲモ包含ス

第十一號ノ流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑スルトハ荒唐無稽ノ風説ヲ流布シテ愚夫愚婦ヲ誑カシ惑ハスヲ謂フ例へハ彗星ノ現ハレタルハ國ノ滅亡スル凶兆ナリ、内地雜居ノ曉ニハ洋人來リテ同胞ノ膏ヲ取ラン維新ノ當時斯カル風説ヲ流布セシ實例アリシ杯ト云フカ如キ是ナリ但其事ノ哲學若クハ理學上ノ學理ニ淵源シ且ツ本人ニ於テ之ヲ信スルヨリ出ツルモノハ之ヲ罰スルヲ得ス又其犯人ニシテ穀類等ノ價值ヲ昂低セシムル爲メニ流言浮説ヲ爲シタルトキハ第二

刑

法

刑

法

百七十二條ノ罪ト成ル可シ
 第十二號ノ罪ハ一種廣義ニ於ケル宗教上ノ詐偽ニ屬ス會テ第二編第四章ノ劈頭ニ於テ詐偽ノ總論ヲ爲シ宗教哲學若クハ理學上ノ詐偽ハ法律之ヲ罰セスト言ヘリ然リ此等ノ學理上ニ淵源スル言爲ハ裁判官ニ於テ其果シテ虛偽ナルヤ否ヤヲ判定スルノ權能ナキヲ以テ之ヲ法律上ノ詐偽トシテ罰スルヲ得ス然レトモ本號ノ規定スル所ハ真正ノ宗教ニ非ス唯一種ノ宗教的行爲ニ屬スルニ過キサルヲ以テ法律ハ之ヲ一ノ詐偽トシテ處罰シタルモノナラン而シテ其真正ノ宗教ナルヤ否ヤハ裁判官ニ在テハ唯内務省社寺局ノ公認セル者ト否トニ依リ之ヲ判別スルノ外ナカル可シ
 第十三號ノ私有地外トハ公有地殊ニ道路ヲ指ス故ニ他人ノ所有スル地所ニ家屋牆壁ヲ設クル者アルモ之ヲ罰スルヲ得ス但民事上ノ制裁ハ固ヨリ論外ナリトス
 濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ云々ト限定セルヲ以テ私有地外ニ足場ノ如キ者ヲ設クル者アルモ之ヲ罰スルヲ得ス

刑

法

第十五號ノ路上ノ植木ヲ毀損スル者ヲ罰スル所以ハ美觀ヲ損シ納涼又ハ防火ノ便ヲ害スルニ由ル又市街ノ常燈及ヒ廁場ヲ毀損スル者ヲ罰スル所以ハ衆人ノ往來又ハ便用ノ便ヲ害スルニ由ル而シテ是等ノ植木常燈廁場等ハ官有若クハ公有ニ係ルモノナルコトヲ要ス若シ一私人ノ所有物ナルトキハ夫ノ家屋物品毀壞ノ罪第四百七條以下ト爲ル可シ
 第十六號ニハ廣ク……………指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者トアレハ後ノ第四百二十九條第十五號ニ規定セル場合ヲ包含セサルコトニ注意セサル可カラス
 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ料ニ處ス
 一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

九身躰ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

本條ニ於テハ違輕罪中ノ第四位ニ次スル罪ヲ羅列セリ

第一號ノ官署ヨリ價額ヲ定メタル物品トハ各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ類ヲ云フ而シテ本號ノ罪ハ一見何人ト雖モ之ヲ犯スコトヲ得ルカ如シト雖モ法律ノ罰スル所ハ唯其一定ノ營業者ニ在リ故ニ普通ノ人ハ假令是等ノ物品ヲ定價以上ニ販賣スルモ罪ト成ラス

第二號ニ所謂其他ノ場所トハ隧道ノ類ヲ云フ而シテ法文ニハ單ニ定價以上ノ通行錢ヲ取リ云々トアルヲ以テ其承諾ニ出ツル者ト否トヲ問ハス苟モ定數外ノ通行錢ヲ取リタル場合ハ同シク本號ノ罪ト成ルカ如シト雖モ然レトモ通行

刑

法

人ノ意思ヲ以テ故ヲニ多額ノ金錢ヲ拂フヲ受取リタル者迄ヲモ罰スルノ要ナル可ケレハ余ハ唯通行人ノ意思ニ反シ其承諾ヲ得スシテ多額ノ金錢ヲ取リタル者ノミヲ罰スルノ法意ナリト信ス

第四號ニハ路上ニ於テ云々トアルヲ以テ室内ニ於テスル者ハ之ヲ罰スルヲ得ス而シテ真正ノ賭博ニ付テハ飲食物ヲ賭スル場合ハ之ヲ罰セサルノ除外例アリ第二百六十一條但書本號ノ賭博ニ類スル商業ヲ爲シ而シテ賭スルニ飲食物ヲ以テシタル者ハ之ヲ如何ニ決ス可キヤ曰ク真正ノ賭博ニ在テハ其之ヲ爲ス者ノ双方ヲ罰シ本號ノ賭博ニ類スル行爲ニ在テハ唯之ヲ商業ト爲シ賭場ヲ張ル者ノミヲ罰スルヲ以テ其性質ノ同シカラサルノミナラス夫ノ飲食物ヲ賭スル者ヲ罰セサルノ規定ハ一ノ例外ナルヲ以テ其明文ナキ場合ニ援引スルヲ得ス故ニ余ハ本號ノ規定ハ飲食物ヲ賭スルト否トヲ問ハス總テ之ヲ罰スルモノト解釋セ

刑

法

第六號中ニ所謂官署トハ警察署ノ謂ナリ其他別ニ説明ヲ要スルノ點ナシ

第八號ニハ官有地云々トアルヲ以テ他人ノ所有スル私有地ニ係ル者ハ之ヲ罰

スルヲ得スト知ル可シ

第四百二十九條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繋キタル者

二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル

者

三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者

七 制止ヲ肯セシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

八 牛馬ヲ牽キ又ハ繋クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

刑

法

十二 銘罰シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四 人家牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五 邸宅ノ番號標札又ハ貸家賣屋ノ貼紙其他報告ノ傍標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八 通路ナキ他人ノ田畝ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入シタル者

本條ニ於テハ違警罪中最モ輕キ罪ヲ羅列セリ

第三號ノ車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲ス場合ハ通例其並ヘ牽ク者ノ全躰ヲ

罰スト雖モ然レトモ甲者乙者ニ先ンセント欲シテ遂ニ並ヘ牽クヲ致シタル場

合ハ單ニ甲者ノミヲ罰セサル可カラス何トナレハ其並ヘ牽クニ至リタルハ全

ク甲者ノ罪ニシテ乙者ノ與リ知ル所ニ非サレハナリ

第四號ニハ單ニ舟ヲ並ヘ云々ト規定シテ筏ヲ並ヘ行ク場合ヲ規定セス是レ蓋シ立法者ノ不注意ノ致ス所ナラン

刑

法

第七號ニ所謂ル遊戯トハ紙鳶ヲ飛シ羽子ヲ打テ獨樂ヲ廻スハ等ノ類ヲ云フ
第九號ニ所謂ル出入ヲ禁止シタル場所トハ官署ノ權力ヲ以テ禁制シタル場所
ヲ指シ一己人ノ意思ヲ以テ禁止シタル場所ヲ包含セス第十號ノ通行禁止ト稱
スルモ亦同シ

刑

法

第十三號ノ路上ノ常燈ニ付テハ其公有ナルト私有ナルトヲ別タス等シク本號
ノ支配スル所ナリ第四百二十七條第十五號ノ市街ノ常燈ニ付テ其公有ナルコ
トヲ要スト説キシハ蓋シ私有ノ場合ニハ別種ノ罪ト爲ルカ故ノミ
第十六號上段ノ罪ハ其性質純然タル盜罪ナレモ其加害ノ程度至輕至微ナルカ
爲メ特ニ降シテ之ヲ違警罪ト爲シタルモノナリ而シテ法文ニ一菜菓ヲ採食シ
トアルヲ以テ假令僅少ナリトモ携ヘ去リタル者ハ盜ヲ以テ論セサル可カラズ
第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル
者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

本條ハ立法者カ行政官タル各地方長官ニ地方違警罪ヲ制定スルノ權利ヲ委任
シタル規定ナリ蓋シ刑律ハ全國畫一ニ出ツルコトヲ要スト雖モ國土ノ廣キ民

刑

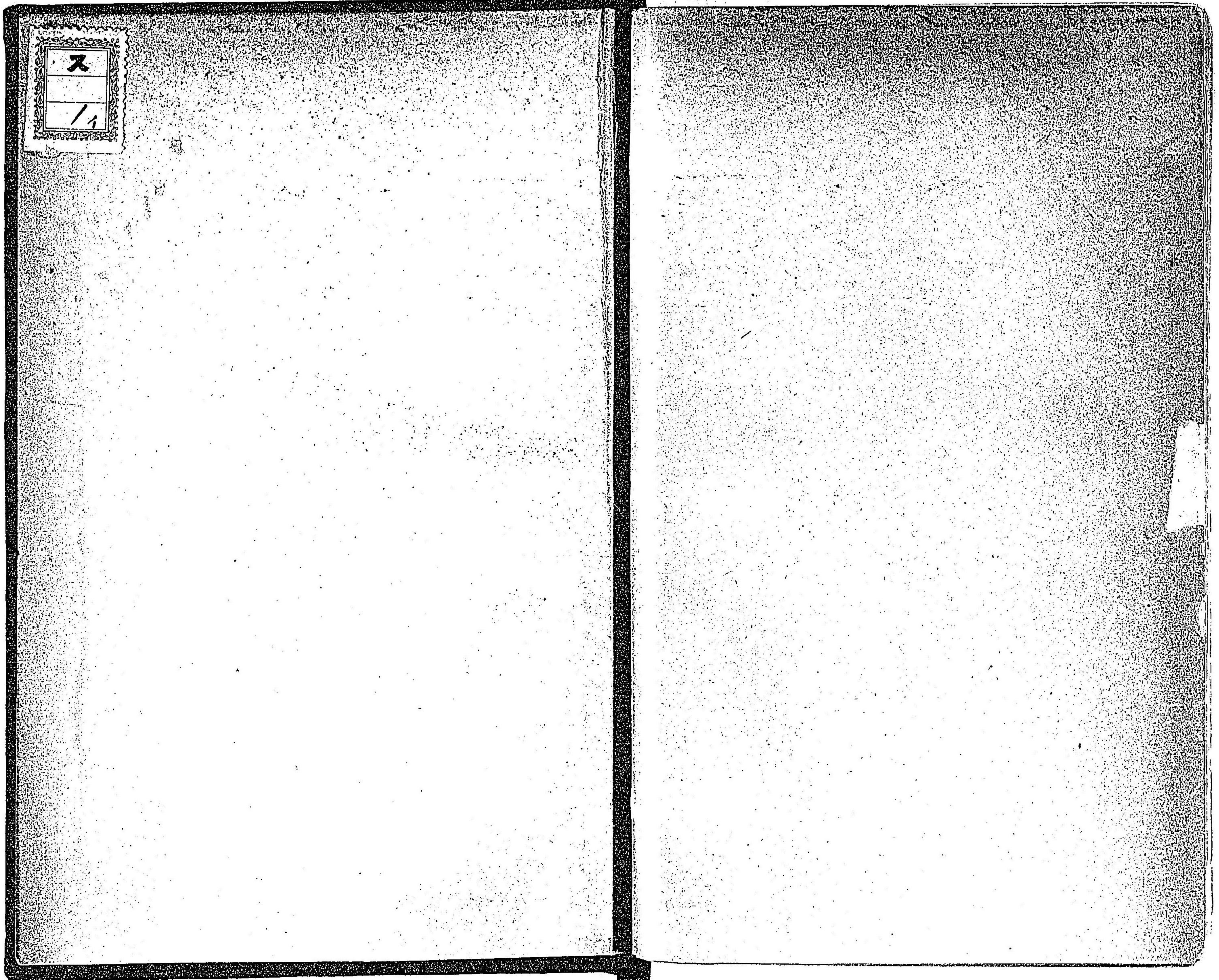
法

生ノ衆キ各地方地勢氣候等ノ異ナルニ從ヒ人情風俗慣習ヲ殊ニシ甚ダシキハ
同一地方ニ在テハ村落ト市街トノ間人民其情態志行ヲ同フセサルモノアルヲ
以テ勢ヒ其地方々々ノ便宜ニ從ヒ適當ナル禁令ヲ設クルコトヲ許サ、ルヲ得
ス是レ法律カ特ニ本條ノ規定ヲ置キ以テ各地方長官ニ地方ノ行政命令即チ警
察令道廳府縣令ヲ以テ地方違警罪ヲ制定スルノ權ヲ付與シタル所以ナリ
然レトモ各地方長官ハ此刑法ノ規定如何ヲモ顧ミス隨意ナル罪刑ヲ制定スル
ノ權ナシ故ニ其刑罰ハ必ズ刑法ノ規定セル違警罪ニ抵觸スル罪ヲ設クルコト
ヲ得サルナリ

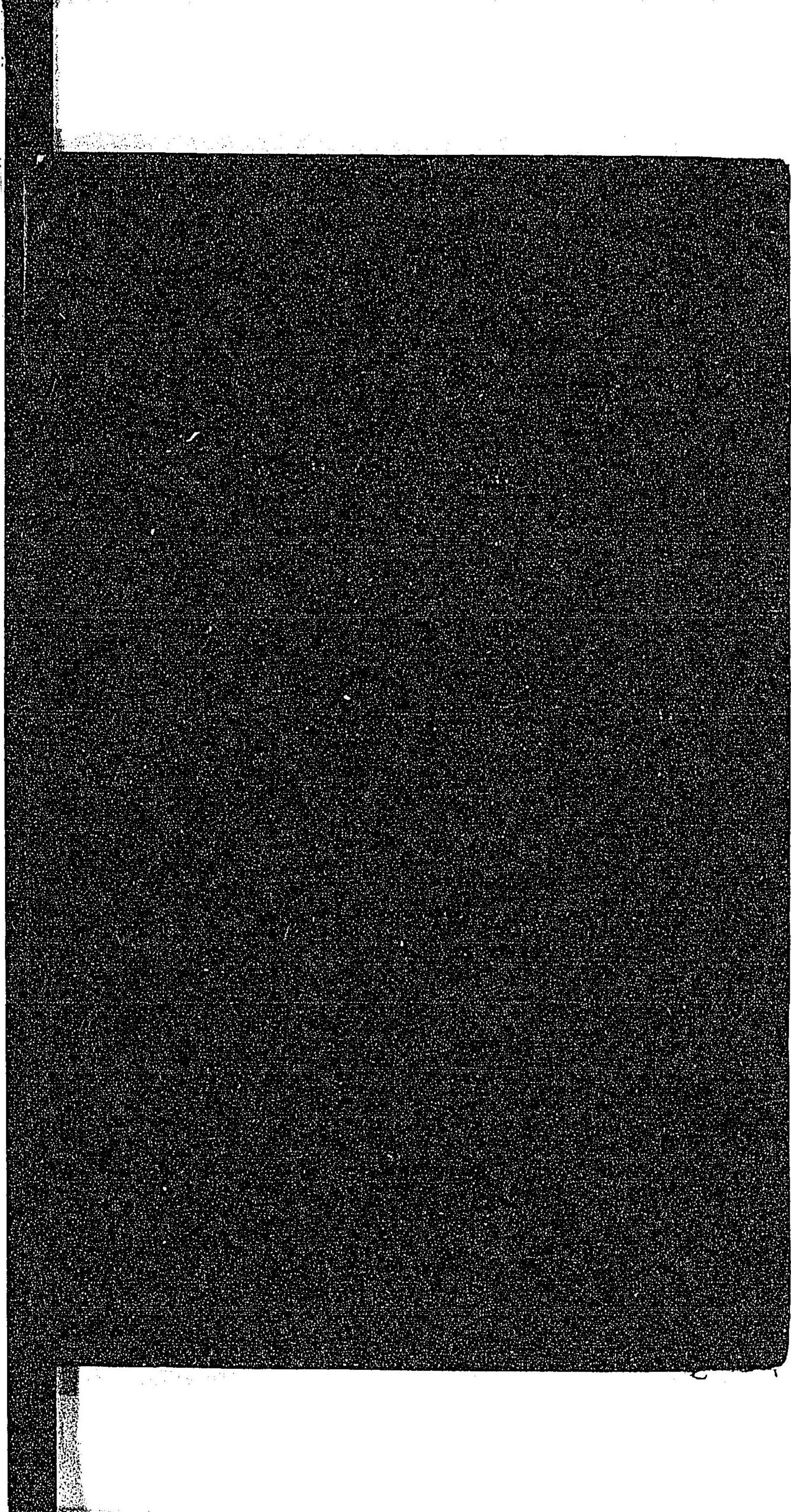
若シ夫レ地方ノ行政命令ヲ以テ違警罪ヲ制定スルコトヲ許シタル本條ノ規定
ノ憲法第二十三條及ヒ刑法第三條ノ規定ニ抵觸セサルヤ否ヤノ疑問ニ付テハ
第一卷以下 頁說明ヲ參照シテ讀者之ヲ自得ス可シ

刑法講義卷之二畢

19/2/36



2 /



ス

レ

